

建築教育ニュース

2004. 11

東日本建築教育研究会

目 次

1. 会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 会長 佐藤清親… 1
2. 平成15年度事業および会計(決算)報告・・・・・・・・・・ 事務局… 3
3. 平成16年度事業計画・会計(予算)報告・・・・・・・・・・ 事務局… 5
4. 平成16年度役員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 事務局… 7
5. 平成16年度総会・研究協議会報告・・・・・・・・・・ 高崎工高:石黒由美… 9
6. 夏期研究協議会に参加して・・・・・・・・・・・・・・・・ 能代工高:畠山司… 12
7. 製図分科会報告・・・・・・・・・・・・・・・・主査 市川工高:菊池貞介… 14
8. 計画分科会報告・・・・・・・・・・・・・・・・主査 川崎総合科学:岩上成輝… 19
9. 建築写真技術講習会・・・・・・・・・・・・・・・・市川工高:江口敏彦… 20
10. 法規小委員会報告・・・・・・・・・・・・・・・・委員長 墨田工高:米原良慈… 23
11. 構造分科会報告・・・・・・・・・・・・・・・・主査 葛西工高:沢野茂… 32
12. 施工分科会報告・・・・・・・・・・・・・・・・主査 昭和第一学園:田辺登… 36
13. 教材委員会報告・・・・・・・・・・・・・・・・委員長 葛南工高:小島聡… 41
14. 製図コンクール運営委員会報告・・・・・・・・委員長 関東第一高:塩澤泰… 51
15. 資格取得推進委員会報告・・・・・・・・委員長 墨田工高:鈴木隆… 58
16. 建築系高校生徒体験実習を終えて・・・・・・・・・・ 蔵前工高:小沢宏… 60
17. 岩手県立盛岡工業高等学校建築教育の現状・・・・・・・・盛岡工高:川端健三… 62
18. 群馬県の工業高等学校建築科の変遷・・・・・・・・藤岡工高:今井賢治… 64
19. 新潟県の工業高等学校建築教育の現況・・・・・・・・新潟工高:渋谷俊晴… 66
20. 福井県立武生工業高等学校建築教育の現況・・・・・・・・武生工高:橋本和之… 68
21. 事務局ニュース・報告・・・・・・・・・・事務局長 小石川工高:岩見立也… 71
22. 会員名簿訂正・・・・・・・・・・・・・・・・委員長 墨田工高定:伊藤和生… 72
23. 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・委員長 墨田工高定:伊藤和生… 73

1. あいさつ

会長 東京都立小石川工業高等学校長

佐藤 清親

第54回東日本建築教育研究会群馬大会は「時代に即した効果的な建築教育をめざして」をテーマに掲げ、7月26日、27日の両日に伊香保町のホテル「天坊」で開催されました。大会には群馬県教育委員会高校教育課長飯野眞幸様、社団法人全国工業高等学校長協会副理事長梅田政勝様をはじめ、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、盛大に開催することができました。これも大会実行委員会の皆様をはじめ、諸準備にあたられた会員の方々のお陰と存じます。この場をお借りして深謝いたします。まことに有り難うございました。

研究協議会は、多数の会員が参加する中、初日は大会の共通テーマのもとに、製図、計画、構造、施工の4つの分科会に分かれ、用意周到な研究発表と熱心な協議が行われました。また、山形県教育センター所長、前文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官佐藤義雄氏が駆けつけられご出席されました。長きにわたる本研究会へのご指導とご助言に対して、心から謝辞を述べさせていただくとともに、私たちは改めて氏の工業に対する熱い想いを感じさせられました。

二日目の研究協議は全体会形式で2つのテーマで3本の研究発表がありました。次期開催地の岐阜県からは、「間伐材を使用したログハウス製作の取組み」がふんだんな画像を交えて発表されました。また、開催地からは、「群馬県の建築教育について」のテーマで、県立の6校による「六校建築展40周年の足跡」の発表と、前橋工業高等学校村田敬一校長から「これからの建築教育について」の全般的な課題整理が提案されました。

今回の大会を通して現在私たちが抱えている何点かの切実な課題が明確にされました。

1つめは、生徒数の減少に起因し、入学した生徒の変容や学校によっては募集停止等が起こっている現状から、今後の入学希望者拡大の検討です。このことは多くの自治体に共通な、まさに危機的状況と言ってもよいでしょう。このためには教科性に関する基礎研究を行う必要があると考えます。関連して3年間に渡る教育課程に関する研究もまた必要です。これからの時代に適した建築教育の存在意義を考え、各校で実践し、その成果を本大会に報告して載せたいと考えます。

2つめは、会員確保の件です。東京都では今年度から公的予算による研究会費の支出が不可能になりました。教科研究会によっては個人会員登録制に移行し、入会希望者が会費

を納入して会員になる制度に会則を改めています。他県においても既に個人で会費を納入している所もあるようですが、今後は少なからずそのような方向になると予測されます。

会員の確保は組織の基盤そのものです。ぜひ十分な検討と協議を経て、会員の共通理解の基に改善策等を考えてまいりたいと存じます。

3つめは、従来の施工技術者試験の来年度以降の在り方についてです。この点については、振興基金から今後の在り方について検討を依頼された建築協会に、工業高校の視点からの要望を継続的に伝えているところですが、試験内容、会場数、受検費用のいずれもが検討中とのことです。明らかになった際には報告したいと存じます。

4つめは、やはり組織のことですが、高校の建築教育研究組織を西日本組織も含めた全国組織への発展統合は、今後ますますその必然性があると考えます。

なお、来年度のサンフェア(全国産業教育フェア)は、東京で開催されることになっています。8月25日に東京で開催された実施連絡会で日程について決定されましたが、この数年間の日程と大きく異なることが明らかになりました。特に私たちが直接関わっている「高校生ものづくりコンテスト建設部門木材加工」は他の部門と同時に、東京都立江戸川技術専門校で開催されることになりました。全国大会の日程としてはこの数年間の日程から2ヶ月以上も早まっています。このため、各ブロック(地区)における予選大会はその日程に合わせ、十分な計画の検討が急務です。

課題の提示ばかりで恐縮の極みではありますが、委員会等各部署で協議を深め、主査会、理事会の機能を活用してぜひ前向きに解決していきたいと思えます。各ブロックの活動を通し、本部へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2. 平成15年度 事業報告

1. 総会・研究協議会の実施

期 日 : 平成15年7月30日(水)～7月31日(木)

会 場 : 石和温泉「石和観光温泉ホテル 慶山」

〒406-0031 山梨県東八代郡石和町市部822番地

1) 開会式

2) 総 会

3) 研究協議Ⅰ(分科会)

4) 夕食会(教育懇談会)

5) 研究協議Ⅱ(研究発表及び分科会報告):製図・計画・構造・施工

6) 講 評

7) 閉会式

8) 研究視察

2. 夏期研究協議会(計画分科会主催)

内 容 伝統的建築物の見学及び講演

期 日 平成15年7月23日(水)～24日(木)

会 場 南ヶ丘倶楽部(中央工学校研修施設)

長野県北佐久郡軽井沢町

3. 資格取得(レタリング技能)研究協議会

内 容 実技を中心としたレタリングの技能及び資格取得の指導に関する講習会

期 日 平成15年8月18日(月)～19日(火)

会 場 東京都教職員研修センター(東京都文京区)

4. 第1回建築写真講習会

内 容 近代建築物を対象とした建築写真講習会

期 日 平成16年3月29(月)30日(火)

会 場 旧古河邸本邸(東京都北区)

東京都教職員研修センター(東京都文京区)

5. 理事会・委員会等の開催

会の構成

1) 理 事 会 役員・都道県理事で総会開催日に年1回開催

2) 常任理事会 役員・常任理事で年3回開催

3) 主 査 会 役員のうち会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計で年6回開催

4) 各種委員会 分科会・委員会の長の召集により開催

5) 刊行物

①建築教育ニュース2003年号(11月発行)

②会員名簿(7月発行)

③各種参考書

6. コンクール・作品展示等

第22回全国高校生建築製図コンクール 平成15年11月4日(火)～11日(火)

第8回全国高校生建築CAD作品展 平成15年11月5日(水)～12日(水)

7. 平成15年度生徒表彰 104校申請

8. その他 関係諸団体との連絡調整

平成15年度 会計決算報告

会 長 佐藤 清親
会 計 佐々木 隆弘

下記の通り御報告致します

1. [収入額]

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
会 費	994,500	994,500	0	153校分(6,500×153校)
雑 収 入	50,000	50,004	4	全工協助成金、利息
印 税	600,000	466,254	-133,746	基礎問題、図集、法規学習ノ、建築施工技術者テキスト
繰 越 金	360,403	360,403	0	
合 計	2,004,903	1,871,161	-133,742	

2. [支出額]

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
1) 事業費	1,250,000	1,092,740	157,260	
総会費	400,000	180,000	220,000	協議会補助、本部経費等
資料費	280,000	267,120	12,880	資料、ニュース印刷費等
講習会補助	60,000	60,000	0	夏期講習会(計画)補助
出張補助費	120,000	102,000	18,000	西日本、北海道出張補助等
分科 会費				
印税分配費	0	93,620	-93,620	3分科会・1委員会=14,270×4 計画分科会=36,540
分担金	390,000	390,000	0	4分会・2委員会=@60,000×6 法規小委員会=30,000
2) 運営費	446,500	368,540	77,960	
役員会議費	50,000	38,230	11,770	常任理事会・主査会等
通信費	150,000	83,810	66,190	総会通知、ニュース発送等
全高建協会費	76,500	76,500	0	500円×153校分
雑費	30,000	30,000	0	事務用品代
事務費	20,000	20,000	0	事務局運営費
名簿費	120,000	120,000	0	名簿作成費
3) 予備費	308,403	137,609	170,794	賞状・発送、ホームページ開設
4) 合 計	2,004,903	1,598,889	406,014	

3. [差引残高] 1,871,161 - 1,598,889 = 272,272

4. [次年度繰越] 272,272

会計監査の結果、収支・帳簿等相違無いことを認めます

平成 16年 5月 31日

会計監査 伊藤 彰

遠藤 悟



3. 平成16年度 事業計画

1. 総会・研究協議会の実施

期 日 : 平成16年7月26日(月)～7月27日(火)

会 場 : 伊香保温泉「ホテル 天坊」

〒377-0195 群馬県北群馬郡伊香保町396-20

- 1) 開会式
- 2) 総 会
- 3) 研究協議Ⅰ(分科会)
- 4) 夕食会(教育懇談会)
- 5) 研究協議Ⅱ(研究発表及び分科会報告):製図・計画・構造・施工
- 6) 講 評
- 7) 閉会式
- 8) 研究視察

2. 夏期研究協議会(施工分科会主催)

内 容 労働安全衛生法による技術講習会

期 日 平成16年7月29日(木)・30日(金)

会 場 東京都品川技術専門校

担 当 施工分科会 田辺 登(昭和第一学園高等学校)

3. 建築確認申請講習会

内 容 木造2階建住宅の建築確認申請書作成講習会

期 日 平成16年7月23日(金)

会 場 江東区森下文化センター

担 当 法規小委員会 米原 良慈(小石川工業高等学校)

4. 第2回建築写真講習会

内 容 近代建築物を対象とした建築写真講習会

期 日 平成17年3月29日(火)・30日(水)

会 場 東京都台東区「旧東京音楽学校 奏楽堂」

担 当 計画分科会 岩上 成輝(川崎総合科学)

5. 理事会・委員会等の開催

会の構成

1) 理 事 会 役員・都道府県理事で総会開催日に年1回開催予定

2) 常任理事会 役員・常任理事で年3回開催予定

3) 主 査 会 役員のうち会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計で年6回開催予定

4) 各種委員会 分科会・委員会の長の召集により開催

5) 刊行物 ①建築教育ニュース2004年号(11月発行)

②会員名簿(7月発行)

③各種参考書

6. コンクール・作品展示等

第23回全国高校生製図コンクール

締切日:平成16年11月4日(木)～11日(木)

第9回全国高校生建築CAD作品展

締切日:平成16年11月4日(木)～11日(木)

7. 平成16年度生徒表彰

申し込み 平成17年1月31日 要綱は建築ニュースに同封

8. その他 関係諸団体との連絡調整

平成 16 年度 会 計 予 算

会 長 佐藤 清親
会 計 事 務 局

1. [収 入 額]

項 目	予 算 額	摘 要
会 費	1,007,500	155校分(6,500×155校)
雑 収 入	50,000	全工協助成金、銀行利息
印 税	500,000	基礎問題、図集、法規学習ノート、建築施工技術者試験テキスト
繰 越 金	272,272	
合 計	1,829,772	

2. [支 出 額]

項 目	予 算 額	摘 要
1) 事業費	1,220,000	
総 会 費	280,000	総会補助、協議会補助、本部経費等
資 料 費	260,000	総会資料、ニュース印刷費等
講習会補助	60,000	夏期講習会(施工)補助
出張補助費	130,000	西日本、北海道出張補助、参与交通費
分科 会費	90,000	印税分配費
分 担 金	400,000	4分会・2委員会・小委員会
2) 運営費	487,500	
役員会議費	40,000	常任理事会・主査会等
通 信 費	90,000	総会通知、ニュース発送通信費等
全高建協会費	77,500	500円×155校分
雑 費	30,000	事務用品代
事 務 費	20,000	事務局運営費
名 簿 費	120,000	名簿作成費
ホームページ維持費	60,000	プロバイダー等
賞状発送	50,000	賞状、発送用箱等
3) 予 備 費	122,272	慶弔費等
4) 合 計	1,829,772	

4. 平成16年度役員名簿

- 1 会長 東京都立小石川工業高等学校 (校長) 佐藤 清 親
- 2 副会長 群馬県立高崎工業高等学校 (校長) 藤倉 新一
 岐阜県立岐南工業高等学校 (校長) 小久保 新
 東京都立葛西工業高等学校 大小沢 真
 東京都立蔵前工業高等学校 菊池 貞
 千葉県立市川工業高等学校 岩見 立也
- 3 事務局長 東京都立小石川工業高等学校 岩見 立也
- 4 会計 東京都立小石川工業高等学校 佐々木 隆弘
- 5 常任理事 [※会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計は兼任]
 岡田 義治 (校長：宇都宮工) 村田 敬一 (校長：前橋工)
 市川 直啓 (校長：名古屋市立工芸) 神保 信幸 (校長：北海道) 橋南 樽一 (工)
 黒須 光雄 (栃木：宇都宮工) 山石 由美 (群馬：馬関工) 東田 第 (一) 園 (工)
 吉野 博行 (埼玉：東京蔵前工定) 岩村 本川 (東京：安田工大付東京工)
 野村 美潔 (東京：蔵前工定) 田無 附 (東京：神奈川工定)
 前古 昌一 (東京：東工大附工) 寒河江 梨甲 (山梨：小石川工定)
 千久 保田 (静岡：岡崎工) 深沢 隆二 (山梨：協建協)
 宮田 武忠 (岐阜：岐南工) 鈴木 木
- 6 都道府県理事
 北海道 山岩村 幸伸 (小樽工) 北海道 鈴木 芳昌 (美盛工) 唄岡 利来 (工)
 青森 森城形 田城上 (十和田工) 北岩 秋福 (白根工) 手島 福群 (那須清峰工) 外藤 長谷 (久宮工)
 宮山 柝崎 大野子 (鶴岡工) 茨城 東山 (春日部工) 藤 梨山 (山梨工)
 栃玉 葉川 小佐藤 (葛城工) 茨城 東山 (春日部工) 藤 梨山 (山梨工)
 千奈 川 島藤谷 敏俊 (小田原城北工) 茨城 東山 (春日部工) 藤 梨山 (山梨工)
 新富 湯山 井和 (新高岡工) 茨城 東山 (春日部工) 藤 梨山 (山梨工)
 福愛 井知 橋横 本井 尚 (佐織工) 茨城 東山 (春日部工) 藤 梨山 (山梨工)
- 7 会計監査 横浜市立鶴見工業高等学校 伊藤 彰 人
 東京都立墨田工業高等学校 遠藤 藤 悟
- 8 分科会委員 (☆：副主査・副委員長)
 1) 製図分科会：主査・菊池 貞 介 (市川工)
 ☆ 吉野 博行 (熊谷工) 角田 勝男 (神奈川工)
 福島 勝 (日本工大東京) 筒井 齊 (神奈川工定)
 塩澤 泰 (関東第一) 遠藤 悟 (墨田工)
 橋本 政美 (昭和第一学園) 吉守 守 (春日部工)
 五月女 勉 (小山北桜) 小須 正巳 (前橋工)
 笹崎 ひろみ (田無工) 須賀 武 (蔵前工)
 國島 かほり (向の岡工)
- 2) 計画分科会：主査・岩上 成 輝 (川崎総合科学)
 ☆ 米原 良慈 (小石川工定) 池田 健司 (大宮工)
 荒木 宏道 (前橋工定) 三野 輪雄 (春日部工)
 江口 敏彦 (市川工) 大橋 正俊 (蔵前工)
 野村 美生 (小石川工定) 新富 井田 澄江 (墨田工)
 成田 仲生 (田無工) 富田 欣一郎 (藤沢工科)

2-2) 法規小委員会：委員長・米原良慈 (小石川工定)
 ☆ 根岸俊行 (館林商工) 武田明広 (市川工)
 石川清人 (峡南工)

3) 構造分科会：主査・沢野茂 (葛西工)
 ☆ 榎本吉晃 (安田学園) 大久保健 (葛西工)
 青柳昭 (市川工) 雨宮行光 (甲府工)
 今井賢治 (藤岡工) 稲垣弘太郎 (藤沢工科)
 小斉澤誠志 (蔵前工) 菅谷太郎 (川越工)
 鈴藤隆夫 (真岡工) 菅沼雄介 (甲府工)
 高橋隆裕 (墨田工) 益野英昌 (仙台第二工)

4) 施工分科会：主査・田辺登 (昭和第一学園)
 ☆ 小嶋計一 (宇都宮工定) 平柳政幸 (日本工大東京工)
 堀口武 (武蔵越生) 丸山政悟 (小石川工定)
 塩山武昇 (大宮工) 伊藤藤彰 (鶴見工)
 小片池逸朗 (甲府工) 佐藤藤克 (神奈川工定)
 小片岡等久 (田無工) 寒河江美和 (新発田南)
 飯谷知久 (安田学園) 網中仁 (桐生工)
 飯塚登美一 (新潟工) 権田正幸男 (大宮工)

9 教材委員会：委員長・小島聡 (葛南工)
 小野関村田 茂博 (市川工) 寒河江本吉 (神奈川工)
 前田美潔 (小石川工定) 榎本晃 (安田学園)

10 編集委員会：委員長・伊藤和生 (墨田工定)
 古賀昌之 (田無工) 柳遠藤 (田無工)
 鈴木健 (田無工) 藤啓史 (市川工)

11 製図コンクール運営委員会：委員長・塩澤泰 (関東第一)
 ☆ 筒井貞齐 (神奈川工定) 福島勝 (日本工大東京工)
 菊池真介 (市川工) 角田勝男 (神奈川工)
 橋本野政博 (昭和第一学園) 遠藤藤悟 (墨田工)
 五月女美行 (熊谷工) 吉城守 (春日部工)
 笹崎勉 (小山北桜) 小島正巳 (前橋工)
 須賀ひろみ (田無工) 國島かほり (向の岡工)

(計学分科会) 荒木宏道 (前橋工定) 池田健司 (大宮工)
 (構造分科会) 菅谷太郎 (川越工) 鈴木隆 (墨田工) 稲垣弘太郎 (藤沢工科)
 (施工分科会) 飯谷知久 (安田学園) 網中正仁 (桐生工) 小嶋計一 (宇都宮工)

12 資格取得推進委員会：委員長・鈴木隆 (墨田工)
 五十嵐忠彦 (小山北桜) 石井直樹 (高崎工)
 泉隆一 (春日部工) 遠藤啓史 (市川工)
 小沢宏 (蔵前工) 鈴木誠 (全高建協・小石川工)

13 広報委員会：委員長・須賀武 (蔵前工)
 関戸亮 (墨田工)

14 顧問及び参与
 1) 顧問 北島敬己 (第16代会長) 稻見辰夫 (第17代会長) 原田昭 (第18代会長)
 2) 参与 土田裕康 (元副会長) 松井貞二 (前副会長) 大間俊彦 (元編集委員長)

5. 平成16年度 第54回東日本建築教育研究会

群馬県立高崎工業高等学校 石黒由美

平成16年度第54回東日本建築教育研究会総会・研究協議会(群馬大会)が、伊香保温泉の『ホテル天坊』にて、平成16年7月26日(月)～27日(火)に行われた。来賓・招待者・会員合わせて200名を超えた参加者があり、盛会に行われた。

最近の工業教育を取り巻く環境は、社会の構造変化や景気不振さらに少子化という影響を強く受け、学科の改編、より深刻な生徒の多様化などにより大きな変革を求められている昨今である。このような情勢を踏まえ群馬大会では『時代に即した効果的な建築教育を目指して』というテーマを掲げ、新しい建築教育に向けた熱意ある研究協議がなされた。

第1日目は午前中に都道府県理事会が行われ、午後にはまず開会行事が行われ諸団体よりご挨拶をいただくと共に、来賓紹介が行われた。(次頁要項参照)

その後総会が行われ、役員・事業・会計関係の報告・計画が提案され承認された。特に今年度の特徴として、①ブロック活動、②個人会員制度が提案され、併せて規約改正を含めて承認された。総会に引き続き東京商工会議所より「福祉住環境コーディネーター検定試験[®]」の資格について説明頂き、今後の資格指導の参考となる紹介をして頂いた。

その後前述した共通テーマを基本に、4分科会(製図・計画・構造・施工)別にそれぞれのテーマで講演・研究発表・ディスカッションが熱心に行われた。

2日目の最初は「研究発表」として、次期開催県である岐阜県を代表して前橋先生(中津川工高)、さらに開催県群馬として寺林先生(桐生工高)、村田校長(前橋工高)の3先生より発表があった。引き続き第1日目に行われた分科会の報告を行った。

群馬県教育委員会より講評頂いた後、閉会行事を行い群馬大会を盛会の内に終了した。

群馬大会を総括すると、会議中の熱心な質問もさることながら、休憩時間や教育懇談会などにおいても積極的な情報交換、意見交流が行われ大変有意義な大会となった。また新しい活動としてブロック活動が承認され、今後の活動を期待する次第である。

大会運営は群馬県内建築科設置校6校で実行委員会を構成し、高崎工高を事務局校として担当県として活動をしてきました。当日は遠路から時間をかけて来県されたり、1週間前の台風による風水害の対応に追われる中参加して頂いたり、多方面からご支援・ご協力を頂き深く感謝する次第です。不行き届きの点も多々あったと思いますが、紙面をお借りしてお詫び申し上げます。また、来年度の岐阜大会(H17.7.28(木)-29(金):岐阜市)がさらに充実した大会となりますようにお祈りすると共に、群馬大会が無事終了したことに対しお礼申し上げます。次第です。

第54回 東日本建築教育研究会総会群馬大会要項

『時代に即した効果的な建築教育をめざして』

期日：平成16年7月26日(月)～27日(火)

会場：伊香保温泉 ホテル「天坊」

《第1日目 7月26日(月)》

都道府県理事会受付

9:30～10:20

都道府県理事会

10:30～12:00

来賓・会員受付

12:00～12:50

1 開会式

13:00～13:50

- | | | |
|---------|---------------------------------|------|
| (1)開会の辞 | 群馬大会副実行委員長 | 村田敬一 |
| (2)挨拶 | 群馬大会実行委員長 | 藤倉新一 |
| | 東日本建築教育研究会会長 | 佐藤清親 |
| (3)来賓祝辞 | 伊香保町長 | 関口俊二 |
| | 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 | |
| | 文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 | 池守滋 |
| | 群馬県教育委員会高校教育課長 | 飯野眞幸 |
| (4)来賓紹介 | 社団法人全国工業高等学校長協会理事長 | 小林聰 |
| | 西日本工高建築連盟会長 | 岡林文治 |
| | 群馬県教育委員会高校教育課長 | 飯野眞幸 |
| | 群馬県教育委員会高校教育課係長 | 外山哲 |
| | 群馬県総合教育センター指導主事 | 宮内光一 |
| | 社団法人群馬県建設業協会会長 | 小島秀薫 |
| | 社団法人群馬建築士会会長 | 神保禄郎 |
| | 社団法人群馬県建築士事務所協会会長 | 秋山隆 |
| | 社団法人日本建築学会関東支部群馬支所長 | 信澤宏由 |
| (5)閉会の辞 | 群馬大会副実行委員長 | 堀口義雄 |

2 総会

14:00～15:20

- (1)開会の辞
- (2)議長選出
- (3)議事
- | | |
|----------------|--------------|
| 1)平成15年度事業報告 | 5)会則改正 |
| 2)平成15年度会計決算報告 | 6)平成16年度事業計画 |
| 3)会計監査報告 | 7)平成16年度予算案 |
| 4)役員改選 | 8)その他 |
- (4)各分科会・委員会報告
- (5)その他・事務局連絡
- (6)閉会の辞

- 3 資格紹介 「福祉住環境コーディネーター検定試験」 15:25~15:35
 東京商工会議所検定事業部
 検定センター検定事業推進担当課長 内田 透
- 4 研究協議Ⅰ(分科会) 15:50~17:20
 共通のテーマ『時代に即した効果的な建築教育をめざして』
 製図分科会 「やる気にさせる建築製図」パートⅡ 効果的な導入・取組
 計画分科会 「設計段階におけるシックハウス対策」
 講演者 有限会社 設計工房佐久間 代表取締役 佐久間 順 三
 構造分科会 「フレッシュ教材作り」パートⅡ・視覚と資格を捉えた建築構造
 施工分科会 「建築施工における視覚的補助教材」
- 5 教育懇談会 18:30~

《第2日目 7月27日(火)》

- 1 研究協議会Ⅱ(全体会) 9:00~10:40
 (1)研究発表 9:00~10:00
 Ⅰ「間伐材使用によるログハウス製作の取組み」
 岐阜県立中津川工業高等学校 前橋 均
 Ⅱ「群馬県の建築教育について」
 ①「六校建築展40周年の足跡」
 群馬県立桐生工業高等学校 寺林 喜久一
 ②「これからの建築教育について」
 群馬県立前橋工業高等学校長 村田 敬一
 (2)分科会報告 10:10~10:40
- 2 講評 10:50~11:10
 群馬県教育委員会高校教育課指導グループ係長 外山 哲
- 3 閉会式 11:30~11:50
 (1)開会の辞 群馬大会副実行委員長 堀口 義雄
 (2)会長挨拶 東日本建築教育研究会会長 佐藤 清親
 (3)次期開催県代表挨拶 岐阜県立岐南工業高等学校 小倉 新司
 (4)閉会の辞 群馬大会実行委員長 藤倉 新一
- 4 諸連絡・昼食 11:50~
- 5 研究視察 13:00~16:00



総 会



都道府県理事会

6. 夏期教育研究協議会に参加して

秋田県立能代工業高等学校 畠山 司

平成16年7月29日から30日の2日間にわたり、東京都品川区にある東京都立品川技術専門学校において「労働安全衛生法による技能講習」が、東日本各地から建築科の先生方を中心に54名の参加者で行われました。

日程は次のように組まれ実施されました。

第1日目 7月29日(木)	8:00~ 8:30	受付
	8:30~ 8:55	開会式
	9:00~ 12:00	講習
	12:00~ 12:40	昼食
	12:40~ 17:40	講習
第2日目 7月30日(金)	9:00~ 12:00	講習
	12:00~ 12:40	昼食
	12:40~ 16:40	講習
	16:40~ 17:40	検定
	18:00~ 18:15	閉会式

以上のような日程で講習会が行われました。この講習は、固定された木工機械を3台以上所有する職場においては、労働安全衛生法による木材加工用技能講習を終了した管理者を置かなければならないということで、木工機械の実務経験3年以上の教職員を対象に行われました。夏休みが始まり、少し気持ちがゆるんできた矢先の講習会で、しかも暑さも厳しい盛りでしたので、自分自身に少し気合いを入れながら講習会に望みました。

まず1日目の講習会では、小玉先生による学科講習が行われました。小玉先生はペースメーカーを入れており、しかも年配の方でしたので多少心配な面もありましたが、とても元気で情熱のある先生でした。また、職人氣質のある先生で、自分の豊富な経験を元に木工機械の構造、安全装置、保守点検まで自分が今まで経験してきた実例を上げながら、実に詳しく丁寧に指導して頂きました。特にギヤングリップパーという機械のことでは、講習会場が爆笑することもありました。また、自分達が休憩や昼食を済ませて帰ってくると、次の講義の為の板書等を済ませているという状況で、本当にきちんとしていました。

後でわかったのですが、小玉先生は83歳で今回の講習で『最後』という締めくくりの講義だったそうです。とても驚き、ただただ頭の下がる想いでした。

2日目は品川技術専門校の筒井先生より安全教育や、治具の製作と使用方法をプロジェクターを用いて指導して頂いたり、実習場を使用しルーターマシンの使用方法や丸のご盤の口板の加工方法などを2班に分かれ実技指導して頂きました。途中、いろんな加工方法の質問にも解りやすくお答えいただき大変参考になりました。実習場にある機械はとても整備されており、また新しい機械も入っているようで羨ましい限りでした。そして何より当然のごとく空調設備（エアコン）が整備されていることが何とも羨ましかった。

さらに、少しの時間ではありましたが木工技術科の実習の授業を見学させて頂きました。生徒が真剣に子引き出しの製作をしていました。各部材に工具を使って墨付けをしたり、ノミでほぞ穴などの加工をしている生徒の目の輝きに驚かされました。

また、1日目に引き続き小玉先生に関係法令等も詳しく指導して頂きました。全講義が終了後は4択問題の学科試験が行われたのですが、この2日間の成果が問われるということもあり、先生方もみな必死になって問題と格闘していました。幸い受講者54名全員が、木材加工用機械作業主任者に合格することができ、無事講習会を終えることが出来ました。

このようなことで2日間の日程を終了したのですが、この講習を通して各先生方の得たものは非常に大きいものだったと思います。物づくりに対する心構えだけではなく、その前に安全指導というものを改めて感じさせられた様な気がします。ふだん自分達は何気なく使っている木工機械は大変便利なものであるが、反面その怖さは計り知れないものだという事です。今回の講習会に参加した先生方全員が講習の成果を表すためにも、絶対怪我のないように授業を進めて行かなければなりません。また、物づくりの楽しさや難しさも同時に教えていきながら、今回の貴重な経験を授業を通して生徒に伝えていくことが我々の使命ではないかと思っています。さらに、今回の講習が無駄にならないようにこれから自分達もいろんな場面で努力していかなければならないと切に感じているところです。

最後に今回の研修会にあたり、会場の準備や資料の作成などにご苦労された、担当校ならびに施工分科会の先生方に心から感謝申し上げますとともに、研修会に参加された先生方の益々のご活躍を祈念いたしまして参加の感想といたします。



7. 製図分科会報告

千葉県立市川工業高等学校 菊池 貞介

教育改革の流れが急速に進んでいます。生徒が一層主体的に学習するための工夫・改善と指導者側の資質向上が強く求められ、各学校とも多用な日々を送られていると思います。一方、教育外の状況には、少子化に伴う入学者の減少と建設産業の停滞といった問題があり、学校単位のレベルを超えて中・長期的な対応姿勢を打ち出す必要があります。

建築教育の目標に生徒の創造性と社会性を引き出すことがあることから、今回の実践報告等も含め大会で発表された取り組みの内容は何れもたいへん素晴らしいものです。特に、大会開催県の群馬県が着実に積み重ねてきた「六校展」などや、栃木県の建築資格取得活動には、全国的な活動に発展させるべき要素を多分に有していると考えます。

しかし、建築教育以外の組織や企業に、その建築教育の素晴らしさを理解する方々がどれほどいるのでしょうか。

丁寧に書き上げられた図面には、取り組んだ時間の重さとひたむきな姿勢がにじみ出ており、間違いのない教育の成果であることは指導にたずさわる者なら誰でも知っていることです。であるならば、このことを、他に理解され協力が得られるように努めていくことがとても重要であると思惟します。地域や関係機関等との連携は、さらに深められなければなりません。建築設計製図教育の素晴らしさを、地域や関係機関・組織に着実に伝え拡げていくことは我々の「義務」と言っても過言ではないはずです。

群馬大会でも触れましたが、国土交通省の建設業振興事業の一つとして、企業や義務諸学校向けの現場見学マニュアル作成が始められています。まず、目に触れられ機会を増やし、関心を高めていただくとする取り組みに、私たちも惜しめない協力をしたいと思います。委託実施団体の（財）建設業振興基金の下記サイトに、是非一度、アクセスしてマニュアル（案）をダウンロードしてください。そして、皆さんの率直な声を返信していただき、次の一歩につなげたいと思います。

*

「現場見学会マニュアル（案：第2版）～建設業と建設現場で働く人を知って頂くために～」

「工事未経験者を対象とした現場入場のための事前準備マニュアル（素案：第2版）」

～専門工事会社の新人技能者やインターシップの建設現場への円滑な受入れのために～

平成16年8月 財団法人 建設業振興基金（国土交通省委託調査）

ダウンロード：http://www.yoi-kensetsu.com/topnews_win/kengaku-1.pdf

ご意見等返信先：（財）建設業振興基金 構造改善センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4丁目2番12号 虎ノ門4丁目MTビル2号館

TEL：03-5473-4572 FAX：03-5473-4580

E-mail：kaizen02@kensetsu-kikin.or.jp

次に、昨夏の山梨大会以降の分科会活動を報告いたします。

◇ 分科会活動

03/11～ 於関東一高

○ 製図コンクール審査業務（3回）

昨年度の製図コンクールについても、計画・構造・施工分科会代表の選考委員と協力し、開封、受付、第一次審査、第二次審査、審査のまとめと賞状発送の各業務を3回に分けて行った。例年のごとく、2学期末に向かう多用な時期であるため、委員の全回出席はなかなか厳しいものがあり、実際の具体的な評価などについての審査項目についてさらに検討を重ねたい。

審査内容等については、製図コンクール関係のページに譲るが、西日本他の研究会所属校からの参加があり、実質的に高等学校関係で実施している唯一のコンクールであることを踏まえ、名称を「全国高等学校～」に変更した。生徒が主体となって作品の創作に取り組めるよう、より一層のご指導を仰ぎたいと念じます。

04/03/12 於関東一高

1 製図コンクールの反省と新課題検討 課題4のCAD製図については、同一平面を与えて、柱、開口部、家具配置と庭園計画の表現を主要審査項目としている。このため、「住宅の設計」とは距離があるとの指摘があった。設計製図課題本来の趣旨から妥当な意見だが、新課題3回目をさらに変更するのを今一度待って、応募状況や作品内容から判断することとなった。

2 群馬大会に向けて 研究テーマと発表スタイルについて検討 大会当日の分科会参加者が、主体的に発言し可能な限りの意見交換を促す意味から、事前に各人からの実践報告を募集する方針を継続実施することとした。

研究テーマ設定

「やる気にさせる建築製図 PART II -効果的な導入・取組-

好評だった昨年度の山梨大会に引き続き、生徒の自発的な取り組みを引き出す事例報告を募集するテーマに設定した。

3 主査会等の内容について 各種連絡事項を伝達する。

04/06/18 於都立墨田工高

新委員の五月女 勉先生（県立小山西桜高等学校）、笹崎ひろみ先生（都立田無工業高等学校）をお迎えして平成16年度第一回を開催した。

- ・ 本年度研究テーマについて各委員の研究実践を求めた。
- ・ 群馬大会研究協議会について進行について具体的に検討した。
- ・ ネパール王国カトマンズユネスコ世界文化遺産危機リスト建造物の現況報告文部科学省研究開発指定となった千葉県立市川工業高等学校の「目指セスペシャリスト」において、昨年暮れに生徒をネパール王国に派遣した際の現地、カトマンズの建築物についての資料を配付した。現状は大変厳しいものがあり、文化遺産の指定地域でありながら伝統的な様式の価値ある民家が都市化の影響を受けどんどん取り壊さ

れていた。目の当たりにした生徒たちは、それらの建築物の破壊状況に危機感を抱き第二次隊派遣につなげる計画となった。大会の分科会会場においても、建築の先生方にその現状を伝える必要性を認識した。

- ・ その他

04/07/15 於県立市川工高

- ・ 群馬大会研究協議会について 進行について検討
- ・ その他研究協議会用報告集の原稿構成と印刷費用節約のため校内印刷とし、製本のみ業者委託とした。300部を作成。

* * *

平成16年7月26日(月) 第54回群馬大会 製図分科会報告

司会進行：関東第一高 塩澤 泰

熊谷工高 吉野 博行

記 録：小山北桜高 五月女 勉

製図分科会では、共通テーマを「やる気にさせる建築製図 PART II」と設定し、各校の効果的な取組状況について事前に資料を提出していただいた。当日は、実践報告の形で数名の先生に発表していただき、その後質疑応答形式で積極的に意見交換を行った。



1 主査挨拶 (市川工高 菊池 貞介)

- ① 前文部科学省佐藤教科調査官からの助言にもあるように、建築教育において、2級建築士を目指すことが示されており、一層の教育課程上の工夫・改善を進め主体的な学習を展開されたい。
- ② 今回、製図分科会として各校の取組み状況を事前にまとめ、資料として残すに至った。掲載者の先生方には、研究発表履歴として活用されたい。
- ③ 建設業における若年労働者の減少が社会問題になっている中で、昨年度の報告のように、国土交通省主催の研究会では義務教育段階の総合学習の時間等を利用した地域の「建築物環境学習」を提唱している。また、インターンシップ等も含め、現場見学に関する企業側と学校側双方の段取りをマニュアル化した資料を作成中である。(財)建設業振興基金のサイトからダウンロードされ、先生方のご意見を積極的に伝えてほしい。(関連事項を分科会報告前段に掲載してあります)

2 研究協議

テーマについて、事前に作成した資料を基に5名の先生に発表していただいた。

発表の主旨は次のようであった。

(1) 青森工高 蒔苗 俊規 先生

- ・ 1学年2クラスの編成で、中には目的意識が薄く製図を苦痛に感じている生徒もいる。
- ・ 1年生の段階からCADを使った授業を展開しており、立体的イメージをつかむのに大変効果を上げている。

今後も益々CADの教育機器としての活用を図り、教育効果を高めていきたい。

(2) 郡山北工高 田母神 三知夫 先生

- ・ 機械系専門でありながら建築の指導に当たっている中で、製図は基本的に好きでないという気が出ない授業だと感じている。時には「アメとムチ」をうまく使い分けて指導に当たっている。
- ・ 工業基礎で、住宅軸組みの模型を作ったりCADを使った製図を展開し、少しでもやる気にさせるための工夫に取り組んでいる。

(3) 横手工高 佐々木 純悦 先生

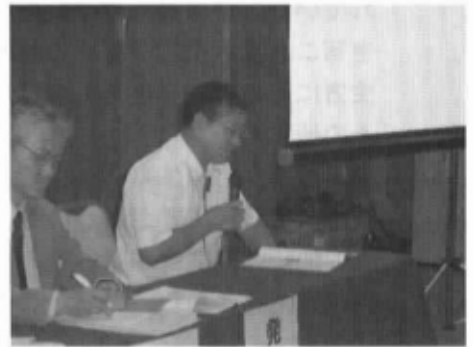
- ・ あまり教科書にとらわれない指導・教育を展開している。全般的学力低下に連動して興味・関心も薄れていることから、他に目を向けて取り組んでいるところである。
- ・ 2年生から「秋田の住宅コンクール」に挑戦させており、製図の基本である手書き製図に取り組んでいる。3年生では、卒業設計（課題研究チーム）で県内の建築設計作品コンクールに応募し、日本建築学会支部長賞を獲得するまでに至っている。

(4) 可児工高 伊田 賢二 先生

- ・ 平成12年度から入学時はくくり募集とし、2年生から建築類型と環境システムにコース分けを行っている。
- ・ 本格的に専門を学習するのは2年生からで、製図は1年生から取り組んではいるが、おもしろさを味わうまでには至らず現在卒業設計も行っていない。今後はCAD等も活用してできるだけ高い目標で臨んでいきたい。

(5) 葛南工高（定時制） 小島 聡 先生

- ・ 中には不本意ながら入学してくる生徒もおおり、義務教育において必要最小限学ぶべきことも身に付いていない子供もいるため、指導において大変苦労している。
- ・ A4版1枚の方眼紙に、濃淡のグリッドで表現した図面シートを各自に渡し、各単元毎に単品の図面を仕上げさせ、数回の授業で一連の作品が完成するように工夫している。更に興味・関心のある生徒に対しては、発展的取組みとして模型製作まで行っている。



- ・ 2年次では略伏図の作成に取組み、最大目標として「かなばかり図」の作成に挑戦しており、各作品に対しては、チェックリストを使って全て朱書きで添削している。
- ・ 3年次では、今までの「なぞる製図」から更に発展させて、木造2階建住宅の自由設計を目標に取り組んでいる。
- ・ 4年次では、課題研究の中で卒業設計にも挑戦していきたい。

3 質疑応答及び自由意見交換

5名の先生の発表後、質疑応答形式で数件の話題について意見が交わされた。主な話題を次に上げる。

- (1) 可児工高（くくり募集を実施）で使用している教科書に関する質問について、1年次では全員が「建築製図」を使用し、2年次からコースにより「建築製図」と「環境製図」を使用している旨の解答があった。
- (2) 田中先生（勿来工高）より、製図道具について他校の取組み方についての情報を求められた。菊池先生（市川工高）から、今までに使った好評の製図用具と現在使っている道具の紹介、更に道具をうまく利用することで有効的な指導につながるというアドバイスがあった。
- (3) 橋本先生（武生工高）から、手書き製図からCAD製図に移すべきか迷っているが、他校の取組み方について情報提供が求められた。塩澤先生（関東第一高）から、1年間手書き製図をやめてCADのみで展開してみたが、画一的な図面になりがちで問題があり、評価も難しかったという回答があった。菊池先生からは、CAD製図の評価については、課題の設定方法等を工夫すれば、各自のオリジナリティが出せるようになり問題ないこと、また、「製図」の評価規準や具体的な評価方法のチェックリストを作り、生徒に説明できるようにすることも必要であるという意見が出された。
- (4) 小島先生（葛南工高）から、製図はコンペ作品を作るという考えで取り組んでいない、製図の過程を大切にし、それを評価しているという意見があった。



4 自由視聴

製図分科会閉会後に、菊池先生（市川工高）による「ネパール王国カトマンズ市のユネスコ世界文化遺産建造物実測調査報告」があり、都市化による伝統建築の破壊が進行している様子が伝えられた。

建築実習で取り組んでいる測量の基礎知識があれば、地域に残る貴重な建造物のデータ等実地調査ができ、地域に貢献する学習活動になることが理解された。



8. 計画分科会報告

川崎市立川崎総合科学高等学校 岩 上 成 輝

計画分科会委員会では主に群馬大会研究協議会に向けての準備、意見交換および、昨年度より実施した建築写真技術講習会の企画等の活動をして参りました。以下に活動内容を報告いたします。

平成15年12月8日（墨田工高）

山梨大会および夏期研究協議会の報告及び反省事項を協議しました。また、次年度群馬大会に向けて分科会協議会の内容を「シックハウス対策」をテーマに実務者による講演を検討。その他、活動費・個人会員制度・主査の任期等討議しました。

平成16年3月9日（墨田工高）

平成16年度役割分担決定。群馬大会における分科会協議会の企画について協議しました。建築写真技術講習会の参加者および実施案の確認。

平成16年5月11日（小石川工高）

平成15年度計画分科会会計報告。3月に実施した第1回建築写真技術講習会の報告及び反省事項を協議しました。

平成16年7月5日（小石川工高）

群馬大会にむけての資料作成準備、分科会協議会の運営および役割分担について最終打合せを行いました。群馬大会後の計画分科会委員会の活動内容について協議しました。

第54回 群馬大会 平成16年7月26日～27日（群馬県伊香保町）

分科会研究協議会は、「設計段階におけるシックハウス対策」について（有）設計工房佐久間の佐久間順三氏を講師にお招きし、講演形式で行いました。講演はシックハウス症候群の基礎知識から始まり、昨年度の建築基準法改正後に生じた設計段階でのシックハウス対策の実務的な問題点や実際に換気設備カタログを使用し、換気計算・換気扇の換気能力の算出方法が説明されました。



*講演の中で、増築した場合に既存部分も24時間換気の対象になるとありましたが、平成16年6月の建築基準法改正で、増改築部分が換気上一体になっていない場合は、既存部分へのシックハウス規制の適用を除外する緩和措置が設けられました。

9. 建築写真技術講習会報告

千葉県立市川工業高等学校 江口 敏彦

昨年度、計画分科会委員会では第1回建築写真技術講習会を開催しました。この講習会は、本研究会においては初の試みで、思考錯誤しながらの実施となりましたが10名の参加者を得て、好評のうちに終了することができました。以下にその概要を報告いたします。

平成16年3月29日

第1日目は東京都北区の旧古河邸において、撮影実習を中心とした講習会を行った。講師の宮本和義氏は建築写真家として第一線で御活躍中であり、現在建築関係の雑誌を中心に幅広く活動されている。宮本氏によれば写真撮影にはコントラストが強すぎないほうがよいとのことで、この日は薄曇りの絶好の撮影日和となった。

まず、旧古河邸を管理している財団法人大谷美術館の事務長内田雄二氏より、内部を巡回しながら建築についての説明がなされた。

旧古河邸を設計したのは、イギリス人建築家ジョサイア・コンドルである。コンドルは明治期に来日し、工部大学校造家学科で教鞭をとり、辰野金吾はじめその後のわが国建築界を支えることになる建築家たちを育てた。また同時に鹿鳴館・ニコライ堂・岩崎邸など、自身の実作により日本における洋風建築をリードした建築家であった。



建物はイギリス貴族の邸宅風で煉瓦造の壁の外側に安山岩を積み上げた重厚な造りであり、屋根には天然スレートが葺かれている。外観は純粋な洋館であるが、内部は様子が異なる。1階、そして階段から2階ホールにかけては、古典系のデザインがちりばめられた洋風であるが、2階ホールの周囲には日本人の家族の生活に合わせた和風の空間が仕込まれている。古河邸はわが国における洋風建築のひとつの在り方を示すものであった。

説明を受けたあと、参加者は撮影に入った。堂々とした力強い外観から撮り始める者、また普段は自由に撮影することのできない魅力的な内部空間を撮り続ける者など、各自思い思いに撮影に没頭した。ある程度の経験者も初心者も講師の適切なアドバイスを受けながら取り組み、実習の予定時間は瞬く間に過ぎ去っていった。

平成16年3月30日

2日目は場所を東京都文京区の東京都教職員研修センター分館 総合技術教育センターに移して講習会を行った。

まず参加者はライトボックスとルーペを用いて、前日撮影したポジフィルムを、時間をかけて観察した。次にその中からスライド投影用作品を選定する作業に入った。各自スリーブ仕上げにされたフィルムを切り離し、自信作を4点ずつマウントにセットした。宮本氏のアドバイスを受けながらの作業は午前中いっぱい続き、提出作品全40点が揃った。



午後の講習会は作品の講評を中心に進められた。各自の作品をスライド投影し、宮本氏からさまざまな視点で御指導をいただいた。光をとらえる感覚、画面周囲への気配り、情感の豊かな写真と硬い写真、デザインに対する興味と構造・技術に対する興味、撮影の技術的な面について等、一人ひとりの作品の特徴や問題点が丁寧に解説された。宮本氏の講評によって、作品には作者本人の性格までもが現れることを思い知らされた。

引き続き宮本氏がヨーロッパで撮影した作品が紹介された。ミス・ファン・デル・ローエのチューゲントハット邸、ヘリット・リートフェルトのシュレーダー邸、ヴィクトル・オルタの自邸など、貴重な建築物がディテールまで克明に描写され、刺激に満ちた講習会となった。

「参加者全員が一所懸命写真を撮ろうとしていたのはよくわかった」、「写真には強弱が大切だ」などの言葉とともに、最後に宮本氏はものを見ることの重要性を説かれた。宮本氏は日本だけに限っても一万件もの近代建築を見てきたという。特に教師はものをよく見ることが大切であり、そのためには写真を撮ることが大いに役立つとの助言は、今回の講習会の意義深さを十分に確信させてくれた。

計画分科会では多くの方々の御尽力により、今回の講習会を行うことができました。講師の宮本和義先生、大谷美術館の内田雄二氏、本会参与で東京都総合技術教育センターの土田裕康先生、ハクバ写真産業（株）の谷口宏司氏他担当の方々をはじめ、関係の皆様には心よりお礼申し上げます。

今後も多くの先生方の御意見をうかがいながら、本講習会を継続実施していきたいと思っております。御協力のほどお願い申し上げます。

アンケート集計結果（意見は原文のまま全て掲載）

●今回の講習会について 良かった 83% その他 17%

- ・内田氏の説明がわかり易く良く見ることができた。
- ・自分はカメラに関して素人だったのでレベルが高すぎた。説明内容が理解できない時があった。
- ・建築写真家の方に直接お会いできたのが良かった。教える立場として第一線の方の話をうかがうことは大切。

●講師の対応は 良かった 83% 普通 17%

- ・ポイントについてのアドバイスを頂けた。
- ・撮影方法についてのアドバイスをわかり易くしていただきました。
- ・専門家ならではの鋭い批評が良かった。講師の作品を見れたことも良かった。

●スタッフの対応は 良かった 83% 普通 17%

- ・行き届いたお世話に感謝します。
- ・キャンセルが出て申し訳ありませんでした。
- ・お疲れ様でした。毎回反省会があったことも良かった。

●撮影場所・講習場所について 良かった 100%

- ・館内外共に撮影できた。
- ・集合しやすい場所であり、歴史的にも価値が高いと思われます。
- ・都心で交通の便が良かった。
- ・建築物と庭園の両方が撮影できる場としても良かった。

●今後の撮影場所について（希望があれば）

- ・普段は入れないところが良い。
- ・事務局にお任せいたします。
- ・骨組の美しい建物。
- ・丸の内周辺、改築前の東京駅等。
- ・一般公開されていなかったり、雑誌ではあまり見れないが特別に見ることができるような作品であると良いと思います。

●その他お気づきの点があれば

- ・講習会の具体的な内容を知ってから、参加するかどうか決めれば良かった。
- ・素人には難しかった。建物を撮るときのアドバイスなども、先に説明してもらいたかった。
- ・時期的にはもう少し早い方が良いような気がします。人事がらみになると参加できないことになると思われます。



講習会参加者および講師と（本館南側にて）

10. 法規小委員会 活動報告

東京都立小石川工業高等学校 米原良慈

◆法規小委員会は、昨年の山梨大会における改正建築基準法講演などの「会員校への情報発信」と共に内部委員の法規理解を深めるための「研究調査による研鑽」といった2つを基本スタンスとし、最終的に各会員校の平素の授業に反映させる目的で取り組んでおります。既済の活動内容及び今後の活動予定をご報告致します。

<活動報告> (昨年度、山梨大会～本年度、群馬大会まで)

I. 委員会議事について

- (1) 第5回 法規小委員会 (03/08/29 東京都立墨田工業高等学校にて)
 - 既刊本「建築の基礎問題集」法規部分の加筆訂正作業の取り組み。
 - 研究調査事項として、法改正が大幅に行われた過去5年間分の建築士試験問題を解説・解答の見直しを行う。(4パート：制度規定、単体規定、集団規定、その他法令および正誤問題)
 - 来年度、群馬大会の講演テーマ山梨大会に引き続き改正法規内容の一項目である「シックハウスに関する事項」で検討
 - 来年度、夏期休業中における実施講習会テーマを「建築確認申請講習会」で検討
- (2) 第6回 法規小委員会 (03/12/02 東京都立墨田工業高等学校にて)
 - 既刊本「建築の基礎問題集」法規部分の加筆訂正作業→完済
 - 研究調査事項(過去5年間分の建築士試験問題の解説・解答を見直し)の原稿作成を終え体裁等の検討後、外部専門家へ検証依頼
 - 群馬大会の講演テーマ「シックハウス対策」協議
 - 「建築確認申請講習会」協議
- (3) 第7回 法規小委員会 (04/03/02 東京都立墨田工業高等学校にて)
 - 研究調査事項(過去5年間分の建築士試験問題の解説・解答を見直し)
原稿最終検証終了、会員校への提供方法検討
 - 群馬大会の講演テーマ「シックハウス対策」協議
 - 「建築確認申請講習会」協議
- (4) 第8回 法規小委員会 (04/04/23 江東区森下文化センターにて)
 - 研究調査事項(過去5年間分の建築士試験問題の解説・解答を見直し)
最終原稿(教材委員会から発行計画書提出要請による)をCDにし、群馬大会で資料配布を行う提供方法とする。
 - 群馬大会の講演テーマ「シックハウス対策」協議
 - 「建築確認申請講習会」開催会場の実踏も兼ねてタイムスケジュールの確認作業。
- (5) 第9回 法規小委員会 (04/07/02 東京都立小石川工業高等学校にて)
 - 研究調査事項(過去5年間分の建築士試験問題の解説・解答を見直し)
CDを群馬大会大会事務局へ発送済。
 - 群馬大会の講演テーマ「シックハウス対策」協議
 - 「建築確認申請講習会」参加希望者状況確認とスケジュール最終確認作業。
 - 次年度配布用の研究調査事項(過去5年間分の建築士試験問題の解説・解答を見直し)

の作業日程確認。(夏期休業中に取り組むことで確認)

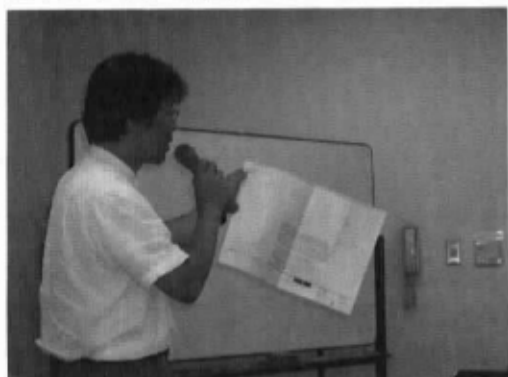
○次年度(17年度)、実施予定講習会「天空率算定講習会(仮称)」実施計画協議。

(6) 研究協議「建築確認申請講習会」(04/07/23 東京都江東区森下文化センターにて)

以下を委員会議事報告とします。

II. 研究研修会「建築確認申請講習会」の実施報告

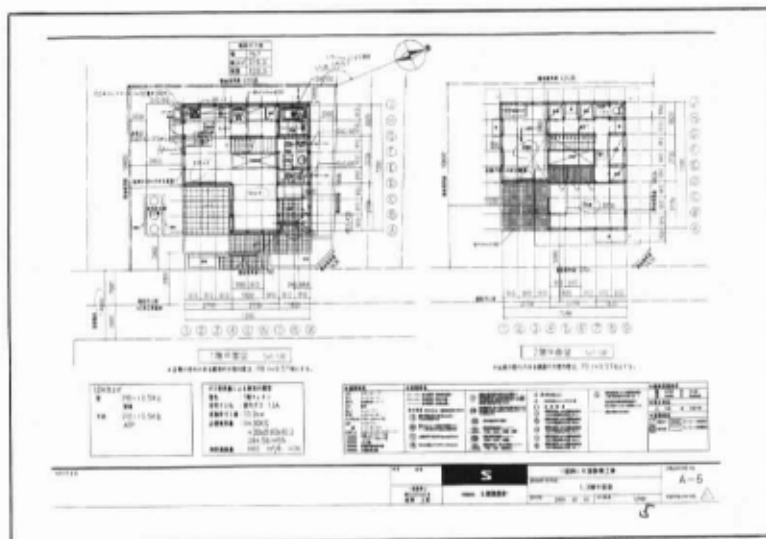
7/23(金)東京都江東区森下文化センターに於きまして、「建築確認申請講習会」を主催しました。講師には千葉県市川市で設計事務所を営んでおり、建築学会・JIA・建築士会等でもご活躍の「(有)翔建築設計 所長 荻原 幸雄様」と「同事務所所員の渡辺ゆかり様」を招聘し参加者18名で実施しました。



確認申請は平素我々自身が業務として携われない実務的内容であります。建築設計実務の過程では、建築基準法の目的である「最低基準」のハードルをクリアして実際の着工に進捗するうえで欠かすことの出来ない基本的且つ大変重要な業務内容です。

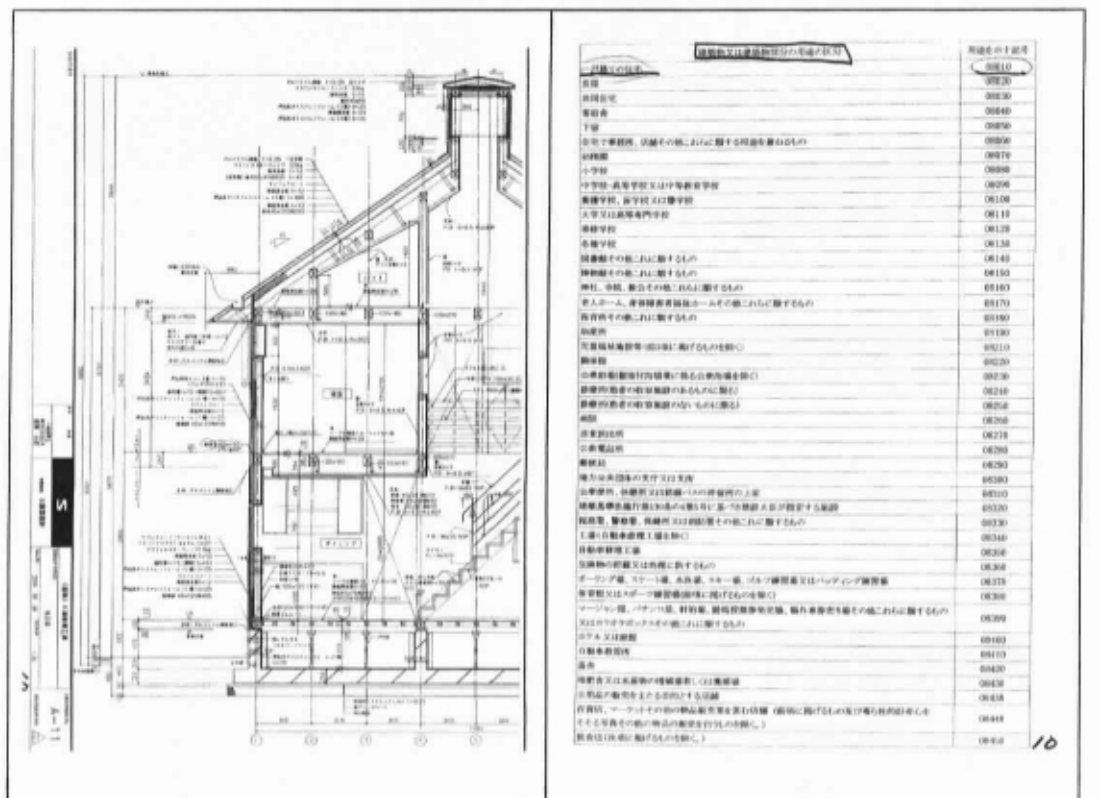
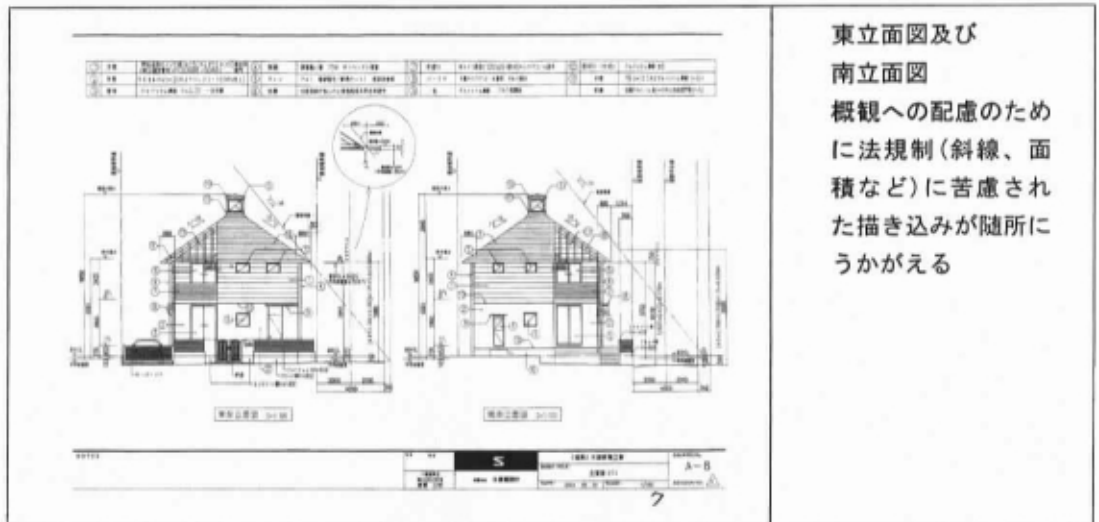
言い換えれば、確認申請書の内容項目に建築法規の「制度規定」・「単体規定」・「集団規定」が網羅されており、その一つ一つの項目を理解することは建築法規を理解する上で有効なものであると考え今回の実施に至りました。

また、実務の申請書作成業務は大変「広範多岐」にまで及ぶものでありますので、今回の講習会については「第1弾 基本導入編」と位置付けました。



配置図兼1階平面図
及び2階平面図

建築物は、「安全であるべき」というコンセプトのもとまず肝心なのは構造重視(基本的な柱・壁などシンプルかつバランスよいこと)



矩計図より、かなり高性能な仕様である(内外断熱仕様、壁内通風換気など)ことがわかる

申請書記載のための用途区分表

- 午前中 法令概要の説明および実際の確認をクリアしたサンプル物件の概要説明
- 午後前半 面積・換気・採光算定などを説明
- 午後後半 参加者各自が法令集を片手に電卓を叩きながら課題演習に取り組む

熱心に課題演習（面積算定）に取り組む。日頃見慣れぬ実務図面から数字を拾うため、最初は少々スローペースでした



その後は、当該サンプル物件の工事工程に沿っての画像投影を行い、その都度、設計及び工事監理での苦心された点や現場のやり取りを丁寧でわかりやすく説明を頂戴しました。質疑応答の時間も予定時間を大幅にオーバーするほど参加者から多くの素朴な疑問を投げかけられ関連なディスカッションが行われました。

- 当該物件のVOC測定の実施有無
- 天空率の検討有無
- 小屋裏規定（高さ1.4m以下で用途が物置等）の告示についての取り扱い面積及び階数不算入の場合の計算方法
- 面積算出後の少数以下の端数について
検査側の対処方法として常に指摘後の二重手間を最小限にするために「安全側」で記載する手法を行う
- ベランダの建築面積不算入について
他の事例との比較等々でした。

荻原様の豊富な実務経験談とともに八面六臂のご活躍を鼻にかけないお人柄もあり、講習会最後に参加者各自に書いていただいたアンケートは次のようなものでした。

- 現場経験がないため今回の講習内容は非常に興味深いものでありました
- 「基本的内容を詳細に理解していなかったところに気づくことが出来て良かった」

また、今後の法規関係講習会への希望については、

- 「継続して、確認申請講習会を望む」
- 「実務的なものを定期的に行ってほしい」
- 「シックハウス、品確法、天空率等について知りたい」
- 「教科書等に記載していない実例等を交えた講習会を期待します」

このような感想を頂戴しますと「今回参加者の先生方がいかに法規の情報収集に敏感で意欲的か」を痛感させられた次第です。

今回の講習会参加者は「東は宮城県、北は石川県、西は静岡県」から参加された方もおり、講習会の最後に「ベテラン実務者から現在の工業高校教員に対しての要望等を尋ねます」と次の2つをあげられました。

1つは、建築物の設計では、デザイン性を求め過ぎるばかりに「構造」がおざなりになりがちだが、上下階の壁や柱の位置を揃えるといった「シンプルで基本的なバランス」を優先するよう生徒たちへご指導いただきたい。

2つ目は、生徒たちへ「リアリティのある体験・実体験をさせてあげられるような環境提供が生徒の授業への関心や意欲向上に不可欠なのではないでしょうか？」といった貴重な提言を頂戴しました。



講習会終了後、玄関前にて記録撮影（前段右2人目が荻原氏、3人目が渡辺氏）

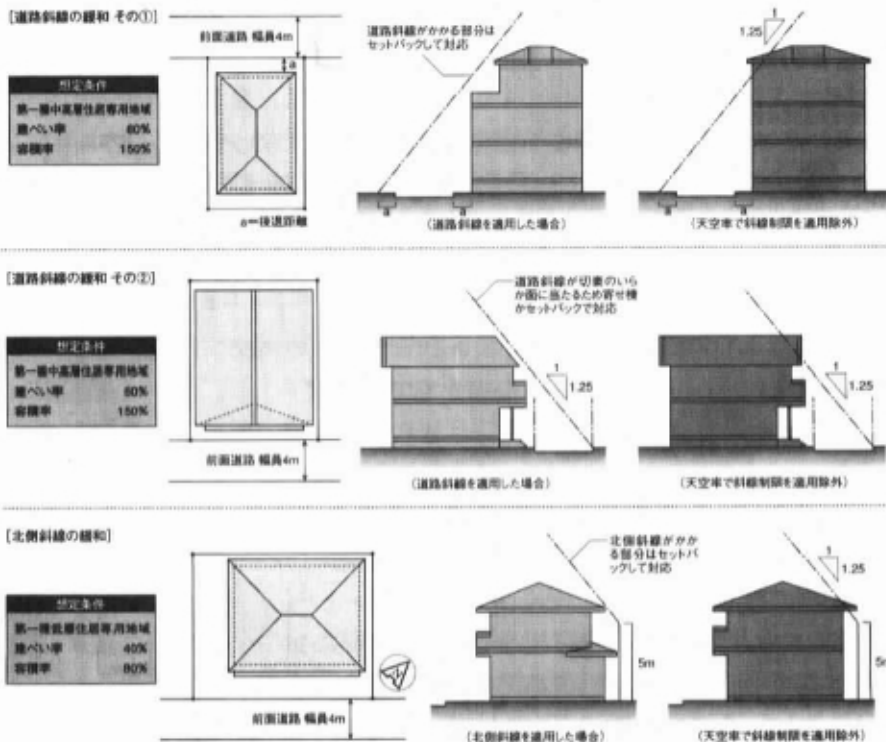
Ⅲ. 法改正の動向について

先般の「群馬大会」において、主だった「法令改正の動向」に関するペーパーを頒布させていただきましたが、その内容について整理をしました。

【2003年における主な法改正】

1. 「天空率による高さ制限の緩和」（施行：03/01/01）

斜線制限と同等以上の通風や採光などを確保できていることを確認する方法として導入された。斜線制限に適合する建物と計画建物の天空率を比較して、後者の値が大きければ、斜線制限を適用除外できる。ただし、対象となる高さ制限は、道路・隣地・北側斜線であり、絶対高さ制限・日影規制・高度地区は適用除外できない。



(2004・04:NIKKEI ARCHITECTURE より抜粋)

法規小委員会では、来年度（17年度）夏季休業日中に「日影図および天空図作図講習会」を企画しております。企画設計段階で「天空率の検討」は実務的にはすでに実用されており建物用途が共同住宅のみならずハウスメーカーでは、むしろ「戸建住宅」に積極的に有効活用している事例があります。

内容は「天空率の意味合い」を理解するためにまずは、「斜線および日影の作図作成」を行いその後「天空図を作成し斜線との比較検討まで」を盛り込みます。

（作図実習を中心に行うので、参加者の方は、電卓・三角定規・分度器・三角スケールなどをご持参下さい。また、ノートパソコンをご持参の方には、デモソフトを体験することも可能です）

このような実習講習会は、昨今の法令に沿った法規の授業とするための作図実習やプランニング実習などで活用できるものと思います。

是非とも、この数少ない機会にご参加下さい。（なお実施要項は、来年度の4／1付発送文書をご覧下さい）

2. 「ハートビル法（高齢者・身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律）の利用円滑化基準の義務化」（施行：03／04／01）

- 1) 特定建築物の範囲拡大
- 2) 特別特定建築物の建築についての利用円滑化基準への適合義務の創設等である。

3. 「シックハウス規制」（施行：03／07／01）は、

- 1) ホルムアルデヒド対策
 - ・内装仕上げの制限

- ・換気設備設置の義務付け
- ・天井裏などの制限

2) クロルピリホスの使用禁止

4. 「居室の天井高さ」法施行令(第21条第2項)(施行: 03/09/24)

〈現行〉学校の教室で床面積が50㎡を超えるものにあつては、天井の高さは、3m以上でなければならぬ規定の対象除外として「専修学校、各種学校及び幼稚園」がある。

〈改正後〉対象除外に「大学」が追加された。

【2004年における主な法改正】

1. 「景観3法」(公布: 040618 施行: 公布から6ヶ月後)

1) 「景観法」

〈現行〉

各地方公共団体が自主条例として景観条例を制定するなど、各地方公共団体において積極的に景観の整備・保全の取り組みを行っている。

【現行の取り組みの限界】

- 積極的に景観の整備・保全の取り組みを行っている
- 自主条例に基づく行為の届出勧告等の手法の限界
- 地方公共団体による自主的取組みに対する、国としての税・財政上の支援が不十分

【必要性】

景観を正面から捉えた基本的な法制を整備し

- 景観を整備・保全するための基本理念の明確化、
- 国民・事業者・行政の責務の明確化
- 景観形成のための行為規制を行う仕組みの創設
- 景観形成のための支援措置の創設等

により、景観の意義やその整備・保全の必要性を明確に位置付けるとともに、地方公共団体に対し、いざという場合の一定の強制力を付与することが必要である。

2) 「景観法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」

3) 「都市緑地保全法等の一部を改正する法律」

2. 「住宅への火災警報器の設置義務付け」(消防法)(公布: 040602)

〈現行〉

戸建住宅や延べ面積500㎡未満の小規模共同住宅などでは自動火災報知設備の設置義務がない。

〈改正後〉

すべての住宅に設置義務となる。

取り付け箇所や方法などの基準の詳細は、政令で示されそれをもとに市町村の条例で規定される。

施行は公布後2年以内とされ、新築住宅は施行後、直ちに設置義務付けとなり、既存住宅については市

町村の条例で設定された周知期間後に設置義務化となる。

〈参考〉東京都については、今年度10/1付条例施行となる。

3. 「建築物の安全性及び市街地の防災機能の確保等を図るための建築基準法等の一部を改正する法律」 (公布: 040602)

1) 建築物の安全性の確保 (基準法等一部改正)

- ①建築物に係る報告・検査制度の充実及び強化
- ②危険な既存不適格建築物に対する是正勧告
- ③既存不適格建築物に関する規制の合理化

【増改築時における建築基準の適用の合理化】

<現 行>

増改築時に即座に全基準に適合させる必要 (増改築が凍結)

<改正後>

工事に関係する基準に順次適合させることで可能、施工計画の提出が求められる

【既存木造住宅向けの改修基準の整備】

<現 行>

増改築時に新築基準への適合が困難 (基礎の撤去・新設等が必要) であるため改修が進まない。

例) 木造の既存部分に増改築を行った場合、既存部分には遡させない。木造部分にRCを増築した場合、木造部分には適しなくてもよい。(本来であれば、既存部分まで適用させなくてはいけないのだが・・・。)

<改正後> 既存の基礎の補強等による対応が可能

- ④罰則の強化 (是正命令に従わない場合の法人重課) ex 1億円レベルまで

2) 災害に強いまちづくりの促進 (都市計画法の一部改正)

○密集市街地における地震災害・大規模火災対策等

特例容積率適用区域制度の拡充、防災空間の確保のための一団地認定制度の創設

4. 「建築物の安全性及び市街地の防災機能の確保等を図るための建築基準法等の一部を改正する法律の一部の施行期日を定める政令」 (施行: 040701)

【建築基準法施行令の一部改正】

1) 位置の制限を受ける処理施設の明確化等

- ①位置の制限を受ける処理施設
- ②小規模な処理施設に対する位置の制限の緩和

2) 石綿に係る規定の整理 (→施行: 041001)

5. 「ハートビル条例 (東京都) (施行: 040701)

【ねらい】

「高齢者・身障者等の行動範囲の拡大」

【考え方】

- 1. 対象建物の拡大
- 2. 規模の引き下げ
- 3. 整備基準の強化

1) 対象建物の拡大

ハートビル法で義務化されている (特別特定建築物) 用途に新たに条例で追加する主な用途として「共同住宅、学校、保育所を含む社会福祉施設、運動施設」など

2) 規模の引き下げ

ハートビル法で定める対象規模が2,000㎡以上であるが、条例では

①すべての規模対象

学校、病院、診療所、集会場、公会堂、官公署、老人ホーム、保育所、等々

②規模 500㎡以上

物品販売店舗、サービス店舗、飲食店等のように生活に身近で、不特定多数の人が利用する建物は、500㎡以上を対象とする。

③規模 1,000㎡以上

劇場、映画館、集会場、展示場等のように、不特定多数の人が利用する建物は、1,000㎡以上を対象とする。

④規模 2,000㎡以上

共同住宅は多数の人が利用し、高齢者等への対応が必要であることから2,000㎡以上を対象とする。

3) 整備基準の強化

ハートビル法で定める主な整備基準は、「出入り口の幅や段差の解消、廊下の幅や段差の解消、階段の手すりや点状ブロック等の敷設、スロープの勾配や滑りにくい仕上げなど」等々であるが、条例ではこれらに追加して、「子育て支援環境の整備」や「共同住宅の特定施設の基準」などが盛り込まれている。

「子育て支援環境の整備」とは、

授乳及びおむつ交換のできる場所の設置や便所にベビーチェア、ベビーベット等の設備の設置等「共同住宅の特定施設の基準」とは、

○廊下、階段、傾斜路、敷地内通路の幅・・・120cm以上

○出入り口の幅・・・80cm以上

○傾斜路の勾配・・・1/12以下

等々で共同住宅の共用部分への経路（特定経路）のみ適用

V. 今後の活動予定

活動報告にも記しましたが、調査研究として今年度、各会員校へ配布した「建築法規の過去問題集」アンケートのご意見をできる限り反映し継続して建築士試験の過去問題の加除修正作業を行う予定であります。

また、下記のような「講習・講演・見学会」も順次企画・実施する方向で進捗しております。どうぞ実務的な講習内容も盛り込み、多数のご参加を得たいと考えておりますので宜しくお願い致します。

1) 次年度(17年度夏季休業日)「日影図および天空図作図講習会」(東京都内において)

2) 次々年度以降は、

「耐震改修促進法適用事例研究見学会(仮称)」(東京都内において)

「建築確認申請講習会(第2弾)」(東京都内において)

「建築法規指導講習会(仮称)」(東京都内において) 等々を企画検討中です。

* つきましては、時期早々ですが、来年度に向けて委員の募集をしております。

自薦他薦問わず、お気軽に問い合わせ及びご連絡をお待ちいたしております!!

1 1. 構造分科会報告

東京都立葛西工業高等学校 沢野 茂

昨年の山梨大会の構造分科会協議では、それまでに分科会として取り組んできた15年版「建築構造」教科書の補助的教材の発表を行いました。事前に行った参加者へのアンケート調査によれば、視覚にうったえる補助教材への要望が非常に多くあり、その意味では、写真を編集して作った補助教材の発表に一定の成果が上がったと感じています。

さて、その後の分科会の活動は、補助教材づくりを念頭に置きつつ、見学会や研修会を実施し、17年度夏期研究協議会の検討なども行いました。ここに、この1年の取り組みをご報告させていただきます。

第1回分科会

1. 日時：平成15年9月26日（金）14：00～
2. 会場：東京建築カレッジ練馬実習場
3. 内容：①木造軸組構法の構造実験の見学会
②補助教材づくりの今後の進め方について

当日は、午前中に大黒柱構法の構造実験がありましたが、私たちの分科会は、時間の都合で午後の実験から見学させて頂き、午後は貫構法の実験でした。水平荷重をかけて変位を測定するという実験でしたが、貫構法が思ったより粘り強く、変形はあるものの荷重を解除すると、また元に戻るという特性を見ることができました。

東京建築カレッジ
練馬実習場
貫構法の実験



第2回分科会

1. 日時：平成15年10月16日（木）
14：00～
2. 会場：都立葛西工業高校
3. 内容：①補助教材づくりの今後の進め方について
②分科会の研修会について
③群馬大会に向けての取り組み
④17年度夏期研究協議会の検討

補助教材づくりの今後の進め方については、写真あるいは図を用いて、それについての解説を加えたものを「建築構造用語集」としてまとめてみてはどうかという提案がなされました。

群馬大会の取り組みについては、現在進めている補助教材づくりの第二弾として発表

する方向になりました。

17年度の夏期研究協議会が構造分科会の担当となるため、その検討を行いました。案として、免震構造の講演及び見学会、木造耐震診断の研修会があげられました。

第3回分科会

1. 日時：平成15年12月12日（金）14：00～
2. 会場：都立蔵前工業高校
3. 内容：①「建築構造用語集」の検討
②分科会の研修会について
③群馬大会に向けての取り組み
④17年度夏期研究協議会の検討

「建築構造用語集」については、各章ごとに項目をあげる作業を行いました。分科会の研修会については、現在取り組んでいる補助教材づくりがホームページを使っているため、ホームページについて勉強しようということになり、その研修会を次回の分科会で行うことになりました。

夏期研究協議会の検討では、免震構造の見学会については、17年の夏では時期的に早すぎるため、今回は見送ることになりました。したがって、もう一つの案である木造耐震診断の研修会で話を進めることになりました。

第4回分科会

1. 日時：平成16年1月15日（木）14：00～
2. 会場：私立安田学園高校
3. 内容：①ホームページビルダーを使った教材づくりの研修会
②「建築構造用語集」の検討
③群馬大会に向けての取り組み
④17年度夏期研究協議会の検討

安田学園の榎本委員を講師に、ホームページビルダーを使った教材づくりの研修会を行いました。委員の約半数は、インターネットに慣れた先生方ですが、残りの半数は、私を初めあまり慣れていないため、ホームページの作成に有効なこのソフトの活用法は、有意義な研修会であったと思います。

第5回分科会

1. 日時：平成16年3月12日（金）14：00～
2. 会場：都立墨田工業高校
3. 内容：①17年度夏期研究協議会の検討
②「建築構造用語集」の検討
③群馬大会に向けての取り組み

「建築構造用語集」については、前回の分科会であげられた項目があまりに多く、解説付きの写真（図）集となると、それなりの目的を持った撮影ができないと、なかなか難しいということと、作成にかなりの時間がかかるであろうということから、現在の補

助教材作りを、もうしばらく進めようということになりました。

群馬大会に向けての取り組みについては、7月上旬までに資料集めを終え、編集作業にかかることにしました。

第6回分科会

1. 日時：平成16年5月21日（金）14：00～
2. 会場：私立安田学園高校
3. 内容：①17年度夏期研究協議会の検討
②群馬大会に向けての取り組み

17年度夏期研究協議会の検討については、日程を17年度の総会以後の8月上旬とし、それまでの間に、木造耐震診断についての委員の研修会を2回程度設けて進めていくことになりました。

群馬大会に向けての取り組みについては、委員の参加予定を確認し、当日の式次第および係分担を決めました。また、榎本委員からは、RC造・S造の資料が集まっていないため、収集をお願いしたい旨の話がありました。

第7回分科会

1. 日時：平成16年7月9日（金）14：00～
2. 会場：私立安田学園高校
3. 内容：①群馬大会に向けての取り組み
②17年度夏期研究協議会の検討

群馬大会に向けての取り組みについては、榎本委員から本番発表用のプレゼンテーションを行ってもらい、それについての意見交換を行いました。

17年度夏期研究協議会の検討については、開催日程を当初8月4～5日としましたが、他の研修会と重なったため、8月1日（月）～2日（火）としました。また、委員の研修会を10月に行い、内容の検討を行っていくことになりました。

第54回群馬大会

1. 日時：平成16年7月26日（月）～27日（火） 13：00開会
2. 会場：伊香保温泉 ホテル「天坊」
3. 全体テーマ：『時代に即した効果的な建築教育をめざして』
4. 分科会テーマ：「フレッシュ教材づくり」パートⅡ・視覚と資格を捉えた建築構造
5. 分科会内容

①開会の辞 ②主査挨拶 ③教材発表 ④質疑応答 ⑤閉会の辞

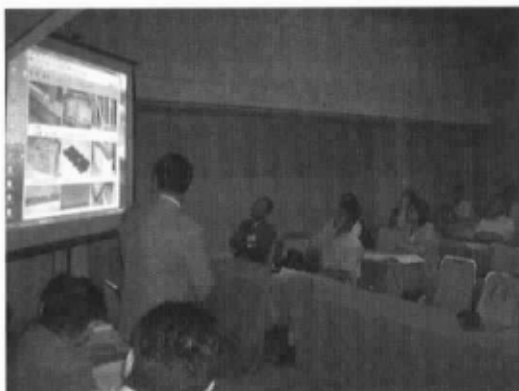
分科会は、昨年の山梨大会で発表した建築構造補助教材の内容をさらに充実させ、特に木構造の内容を大幅に増やし、安田学園の榎本委員に発表して頂きました。資料の内容は、榎本委員が自宅や近所で撮影したものを中心に、各委員から集めたものを抜粋して構成したものです。作成にあたり特に注意した点は、著作権に関わる写真が載らないように、基本的には各自の自前の写真としたことです。

また資料には、該当する項目に2級建築士の過去問題が出題されている場合、クリッ

クして出せるようにしました。これは、高校生にも在学中から2級建築士の問題に触れさせることと、国家試験でも取り上げられるほどの重要事項であるという認識を持たせることを目的としたものです。

発表後の質疑応答では、いくつかのご指摘を頂きました。写真不足・説明不足といったご指摘や、写真だけの資料では情報が多くなりすぎてしまうので、説明したい箇所などの部分的な図なども用いた方がよいというご意見も頂きました。

確かに、自前の写真撮影ということで、撮りたい写真が思うように撮れなかったという問題点もありました。この補助教材の発表は、今回でひとまず終えたいと思いますが、今後は、こうしたご意見を生かしながら、さらに内容を吟味し充実させていきたいと考えております。



構造分科会の会場内の様子



発表者の榎本委員

〈17年度夏期研究協議会に向けて〉

17年度は、構造分科会の担当で夏期研究協議会が行われます。これまで、数回の分科会で内容の検討を行ってまいりましたが、『木造耐震診断の研修会』と決まり、日本大学講師の八島先生を講師に招き、平成17年8月1日(月)～2日(火)に千葉県立市川工業高校を会場として実施の予定で進めていくことになりました。(会場の都合で変更の可能性もあります)

この実施に向けては、委員で2回程度の研修を行い、研修内容の詳細を詰めていきたいと考えています。いずれにしても、ご参加頂ける先生方に充実した研修をして頂けるよう分科会一同取り組んでまいります。

12. 施工分科会報告

昭和第一学園高等学校 田 辺 登

施工分科会は、施工の授業において、生徒に興味をもたせ分かりやすく内容を伝える方法として視覚的教材を昨年より研究している。昨年は鉄筋コンクリート構造の躯体工事の研究であったが、本年は、仕上げに関する研究を行い、7月26日に群馬大会において発表した。

それに先立ち、全工協の依頼による、木材加工部門高校生ものづくりコンテスト関東大会の実行委員会を兼務、7月17日（土）に第4回大会を実施した。

また、本年の東日本建築教育研究会夏期研究協議会は、施工分科会が担当ということで、7月29日・30日の2日間、労働安全衛生法による技能講習を実施した。

従って、本年の施工分科会は、3つの研究協を並行して進めた。

活動報告として、1. 年間活動、2. ものづくり関東大会、3. 施工分科会研究発表、4. 夏期研究協議会の順に述べる。

1. 年間活動

（平成15年度）

平成15年11月21日 ●第8回施工委員会（会場：宇都宮工業高等学校）

●第7回高校生ものづくりコンテスト関東大会実行委員会

『内容』 ・平成15年度研究課題のまとめ

・平成16年度夏期研究会の検討

・第3回高校生ものづくりコンテスト関東大会の研究協議とまとめ

・日光輪王寺三重塔見学会

平成16年1月16日 ●第9回施工委員会（会場：安田学園高等学校）

●第8回高校生ものづくりコンテスト関東大会実行委員会

『内容』 ・平成16年度の研究課題についての研究協議

・平成16年度夏期研究協議会の内容確認

・第4回高校生ものづくりコンテスト関東大会の研究協議

3月10日 ●第10回施工委員会（会場：武蔵越生高等学校）

●第9回高校生ものづくりコンテスト関東大会実行委員会

『内容』 ・平成16年度の研究課題についての研究協議

・平成16年度夏期研究協議会広報確認

・第4回高校生ものづくりコンテスト関東大会の課題の研究

3月25日 ●第11回施工委員会（会場：安田学園高等学校）

●第10回高校生ものづくりコンテスト関東大会実行委員会

『内容』 ・建築施工教科書の補助教材研究（仕上げ編）

・平成16年度夏期研究協議会の全般確認

・第4回高校生ものづくりコンテスト関東大会に向けての指導研究

(平成16年度)

- 平成16年5月20日 ●第1回施工委員会 (会場: 安田学園高等学校)
●第1回高校生ものづくりコンテスト関東大会実行委員会
『内容』 ・夏期研究協議会の会場設定と今後の準備
・分科会研究課題の教材研究
・第4回高校生ものづくりコンテスト関東大会の参加者数確認
- 6月9日 ●第2回施工委員会 (会場: 安田学園高等学校)
●第2回高校生ものづくりコンテスト関東大会実行委員会
『内容』 ・夏期研究協議会参加者確認と内容確認
・分科会研究課題の教材校正と群馬大会での役割分担
・第4回ものづくりコンテスト関東大会の参加者数確認と準備確認
- 7月7日 ●第3回施工委員会
●第3回高校生ものづくりコンテスト関東大会実行委員会
(会場: 安田学園高校、江戸川技術専門校、品川技術専門校)
『内容』 ・夏期研究協議会々場確認
・補助教材確認と群馬大会資料発送
・第4回ものづくりコンテスト関東大会の材料・会場確認
- 7月17日 ●第4回高校生ものづくりコンテスト関東大会実行委員会
(会場: 都立江戸川技術専門校)
『内容』 ・第4回木材加工部門高校生ものづくりコンテスト関東大会
- 7月25日 ●第4回施工委員会 (会場: 伊香保温泉 ホテル天坊)
↳ ・25日、高校生ものづくりコンテスト作品搬送・展示作業
27日 ・26日、群馬大会施工分科会研究発表
・27日、高校生ものづくりコンテスト展示片付け・作品搬送
- 7月28日 ●東日本建築教育研究会夏期研究協議会
↳ (会場: 都立品川技術専門校)
30日 ・労働安全衛生法による技能講習・木材加工用機械作業主任者
・第5回施工委員会 (品川プリンスホテル)
- 8月10日 ●第6回施工委員会 (会場: 昭和第一学園高等学校)
●第5回高校生ものづくりコンテスト関東大会実行委員会
『内容』 ・建築施工教科書の補助教材研究とまとめ
・第4回ものづくりコンテスト関東大会使用道具・残材の搬送

2. 木材加工部門高校生ものづくりコンテスト関東大会について

木材加工部門高校生ものづくりコンテスト関東大会は、下記のように実施した。
今回の課題は、前大会と同様であるが、側板の5枚組接ぎを、一部入れ換えた。

1) 大会運営

大会名: 第4回木材加工部門高校生ものづくりコンテスト関東大会
主催: 全国工業高等学校長協会関東支部
高校生ものづくりコンテスト関東大会実行委員会

大会日時：平成16年7月17日（土）
受付・12時～、競技・13時～15時30分（2時間30分）
会場：東京都立江戸川技術専門校
所在地・東京都江戸川区中央2-31-27
競技対象：関東地区工業高等学校建築系生徒
参加費：2000円/人
参加者：31名（17校・1都6県）

2) 結果

第1位 宮本準平 埼玉県立大宮工業高等学校 建築科2年
第2位 富吉剣人 東京都立工芸高等学校 インテリア科3年
第3位 鈴木千尋 埼玉県立川越工業高等学校 建築科3年

全国大会への関東地区代表は、宮本準平（大宮工業高校）君と決定し、全国大会への代表推薦書を全国工業高等学校長協会関東支部長より出して頂いた。

3) 費用について

支出として東日本群馬大会での展示会を含めて約10万円であった。

□会議費・弁当・茶代として約1万円、 □郵送・交通費として約3万円

□材料・備品・賞状・盾・会場費として約6万円

収入として2000円×31名=62000円だけなので、残りは寄付を仰いだ。

また、競技用木材については、(社)全国木材組合連合会より寄付を頂いた。

4) 来年度からの大会運営

東日本建築教育研究会群馬大会において、ブロック活動が了承されたので、関東ブロックの理事会が正式に確認され、実行委員の募集につながることを期待する。



材料の選択



競技風景

3. 施工分科会研究発表について

昨年同様に、建築施工の授業の効率化、生徒の理解力向上を目的として、最新の現場写真による『視覚的補助教材:仕上げ編』を研究した。

研究内容は群馬大会で発表したが、内容の一部を次に載せる。

1) 視覚的補助教材・仕上げ編

2・天井下地・金物工事

野縁・振れ止め



2・天井下地・金物工事

ボードの割り付け



4. 夏期研究協議会について

施工分科会としての準備・打ち合わせを前日から行ったが、東日本建築教育研究会夏期研究協議会は次のように実施した。

日程：平成16年7月29日（木）～30日（金） 2日間（16時間講習）

会場：都立品川技術専門校（委員会は品川プリンスホテルも会場とした。）

講習：労働安全衛生法による技能講習《木材加工用機械作業主任者》

宿泊：品川プリンスホテル（JTB教育旅行東京多摩支店扱い）

参加：受講者54名（特別参加、主査を含めると56名）

実務経験証明書で確認した上で、54名受講した。最後に学科試験があるので、真剣そのものであった。結果としては、全員優秀な成績で合格、資格を取得した。



受講風景



受講風景



施工委員



閉会式・修了証授与

5. まとめ

分科会の建築施工補助教材は、鉄筋コンクリート造の仕上げ編であったが、群馬大会の研究発表では良い評価を得ることができ、各校での利用が待たれるところである。

ものづくり関東大会の結果は前述の通りであった。全国大会は、10月29日（金）に広島で実施されるので、良い結果を期待する。関東大会実行委員会については、ブロックとして活動が現実味をおびてきた。

夏期研究協議会は、猛暑の中で行ったが、講義する側からも優秀な研究会であると絶賛された。受講された皆様、お疲れ様でした。

13. 教材委員会報告

千葉県立葛南工業高等学校 小島 聡

教材委員会では、昨年に引き続き「福祉住環境コーディネーター検定試験®」に関する調査アンケートを行なっています。今年度は、この検定試験にすでに取組み実績のある学校に対して、その具体的な取組み内容をお知らせいただき、群馬大会にて資料配付いたしました。また、群馬大会ではこの試験の実施団体である東京商工会議所検定センターより担当者を招いて、試験概要の説明をいただきました。10月には、この試験の立ち上げから携わっておられる「青山環境デザイン研究所」所長の渡辺光子先生のご講演をいただきます。今後も引き続き教材委員会では、「福祉住環境コーディネーター検定試験®」について教材化に向けての調査・研究を行っていききたいと思います。

また、今後のデジタル教材の作成に向けて、「著作権」について意識する必要性をお知らせ致します。平成16年8月3日に文化庁主催による「教職員著作権講習会（東京会場）」が行われました。

また、8月11日に岡山県教育センターを主会場として全国76会場にて、学校における適切な著作物の利用や児童生徒への著作権教育の支援・促進を目的とした著作権講習会が、岡山会場での講習会をエル・ネット（文部科学省の教育情報衛星通信ネットワーク）を通じて同時中継されました。文化庁HP

(<http://www.bunka.go.jp/ityosaku>)をご参照ください。東京での講習会の概要を別紙同封資料にてお伝え致しますのでご参照ください。

教材委員会では、このような教材開発支援に関する情報を会員各校へ向けて発信していきたいと思っております。皆様からのご意見・ご要望と教材資料の提供をお待ちしております。教材委員会（小島）（E-mail: s.kjm11@chiba-c.ed.jp）
「福祉住環境コーディネーター検定試験®」は東京商工会議所の登録商標です。

「福祉住環境コーディネーター検定試験®」取組み実践校に対する追加アンケート

(2004.4実施)集計結果報告：アンケート依頼校(26校)、回答校(19校)、回答率(73.1%)

東日本建築教育研究会 教材委員会

2003.11の建築教育ニュースの誌上で報告の通り、「福祉住環境コーディネーター検定試験®」に対する会員各校よりアンケートにご回答頂いた結果26校より取組み実績があるとのことをご回答頂きました。そこで今回は、すでに取組み実績のある学校より具体的な取組みの様子をお知らせ頂くようご協力を求めたところ、19校よりご回答を頂くことが出来ました。ここに、19校より寄せられた各校の取組みの様子をご紹介します。今後取組みを検討している学校はもとより、既に取り組みされている学校におかれましてもより一層の研究材料としてご活用頂ければ幸いです。

今回の報告は、各実践校での指導内容をご紹介しますことが目的です。今後、教材委員会に望むことや、ご意見・ご感想をもとに更なる方策を検討していきたいと考えていますので、積極的に教材委員会までご意見をお寄せください。

問1 貴校の「福祉住環境コーディネーター検定試験®」への取組みについて伺います。

- 1) 受験種別 ①個人受験：13校 ②団体受験：6校
- 2) 受験学年 全日制 定時制 専攻科
- | | | |
|---------|--------|--------|
| 1年生：1校 | 1年生：0校 | 1年生：1校 |
| 2年生：8校 | 2年生：1校 | 2年生：1校 |
| 3年生：12校 | 3年生：1校 | |
| 全学年：2校 | | |
- 3) 対象 ①全員：2校 ②希望者：15校
- 4) 受験時期 ①春(6月)：10校 ②秋(11月)：12校
- 5) 生徒への説明内容(受験の意義付け)をお知らせください。

(生徒のモチベーション持続の秘訣等)

- 履歴書に記入することで専門分野に対しての意欲をアピール出来るという進路活動への有効性と将来家族や自分が介護されなければならない立場になるかもしれない。その時に学習したことが生かされるはずと、取り組む意義を話しています。
- 希望者なのでそれなりに意欲のある者が取り組んでいる。
- 試験の説明だけです。
- 技術者として、資格取得の重要性を啓蒙している。
- 学級担任または課題研究、建築系専門の選択科目の授業担当者が生徒に説明をする。
- 福祉住環境コーディネーターの役割や、テキストの内容などを説明し、希望者への受験を勧めている。又、建築・福祉系への進路を考えている生徒に具体的な知識などを教え、将来に役立つことを認識させている。
- 多くの医療用語が使用されているので、課程の医学の本を参考にして指導。
- この資格の必要性について説明している。
- 福祉・医療・建築が結びついた資格であり、今後重要になってくる分野であると説明している。
- 毎朝20分間、補習形式で実施。毎日続けることがモチベーションの向上につながる。
- 資格取得の1つとして、生徒へ紹介し希望者に受験させる。
- 福祉にも興味を持っている生徒を集め内容を説明。これからの資格であることや、介護保険制度と自分たちの関わりなど、できるだけ身近な題材を例に取り上げながら補習を進めている。
- 校外学習(介護支援センター、介護老人保健施設)などで、実体験させ興味・関心を持たせたいと、必要性を理解させる。
- 課題研究 資格取得班(福祉住環境コーディネーター) 全員受験



6) 取組み内容

①受験案内のみ 13校

○案内方法についてお聞かせください

- ア. 掲示のみ 4校
- イ. 受験案内書の配布 6校
- ウ. 説明会を開催 5校

- 他の資格と同時に
- 建築計画の授業で簡単に説明
- ②補習を実施 6校
- 補習の時間についてお聞かせください



- ア. 授業開始前
 - 20分/日×5日
 - 150分/日×8日
- イ. 放課後
 - 60分/日×10日 (試験前10日)
 - 60分/日×10日
 - 60分/日×12日
 - 60分/日×20日
 - 60分/日×30日

- ウ. 休業日
 - 240分/日×4日

- 延べ時間数
 - 60分/日×10日 (希望者個々に)
 - 60分/日×20日
 - 60分/日×30日=延べ30時間
- 延べ28時間 (1~3年の希望受験者の時間数)

③授業で取り組んでいる 9校

- ア. 科目名
 - 課題研究 (3年)
 - 選択 (専門) の一部で (3年)
 - 住居環境 (学校設定科目)
 - 実習 (課題研究) (3年)
- イ. 履修形態
 - 必修1校 必修選択7校 自由選択1校
- ウ. 指導時数

	単位	延べ時間数	10時間
	2単位		
1.	5単位	延べ時間数	40時間
	2単位	延べ時間数	10時間
	2単位	延べ時間数	20時間
	2単位	延べ時間数	70時間
	3単位	延べ時間数	90時間

スケジュール

	1学期					2学期				3学期		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年						始 ————— 受験 (希望者のみ)				始 (2年に続く)		
2年 受験					(自習のみ) 始 ————— 受験						
2年	(宿題) 始 —————					(自習学習) 受験						
						始 ————— 受験						
3年						始 ————— 受験 (希望者のみ)						
	始 ————— 受験					始 ————— 受験 (授業内)						
	始 ————— 受験 (3級)					始 ————— 受験 (2・3級)						
4年												

④使用教材をお聞かせください

ア. テキスト

書籍名：福祉住環境コーディネーター検定3級テキスト（出版社：東京商工会議所）

書籍名：福祉住環境コーディネーター検定2級テキスト（出版社：東京商工会議所）

書籍名：福祉住環境コーディネーター3級短期合格テキスト（著者：渡辺光子）

書籍名：福祉住環境コーディネーター（出版社：日本能率協会マネジメントセンター）

イ. 問題集

書籍名：3級過去問題集（出版社：自由国民社）

書籍名：福祉住環境コーディネーター検定試験3級模擬問題集（出版社：一橋出版）

書籍名：福祉住環境コーディネーター最重要問題100選（出版社：EM・ネット教育総研）

書籍名：過去問題集3級（著者：渡辺光子）

書籍名：過去問題集2級（著者：渡辺光子）

書籍名：福祉住環境コーディネーター3級問題集（出版社：ミネルバ書房）

書籍名：福祉住環境コーディネーター（出版社：リックテレコム）

書籍名：福祉住環境コーディネーター3級攻略問題集（出版社：ナツメ社）

ウ. 自主制作教材

a. 内容をお知らせください

○東京商工会議所発行の3級公式テキストをまとめた

○過去問題

⑤担当指導教諭についてお聞かせください

ア. 複数の教員で指導している 3校

イ. 担当教員を決めている 13校

b. 担当教員の「福祉住環境コーディネーター検定」の取得状況についてお聞かせください。

i. 取得していない 3校

ii. 取得準備中である 3校

iii. 3級を取得している 5校

iv. 2級を取得している 8校

v. 1級を取得している 0校



⑥1分野と2分野のどちらに重点を置いて指導していますか

ア. 第1分野 3校

イ. 第2分野 2校

エ. 両方とも 9校

やや難しい第1分野に時間をかけている



⑦テキストと問題集のどちらを中心に指導されていますか

ア. テキスト中心 4校

イ. 問題集中心 5校

ウ. 両方を併用 8校

⑧模擬試験等の実施の有無と回数についてお聞かせください

ア. 模擬試験は実施していない 10校

イ. 模擬試験を1回実施している 0校

ウ. 模擬試験を2回実施している 4校

エ. 模擬試験を3回以上実施している 5校

⑨生徒への宿題はありますか

ア. 有り 9校

a. 生徒の取組み状況は 良い 5校

b. 生徒の取組み状況は 悪い 0校

c. どちらともいえない 4校

イ. 無し 9校



⑩長期休業中の取組みがあればお知らせください

ア. 無し 12校

イ. 有り 4校

○福祉系の先生の協力を得て、特別な学習会を予定したが実現しなかった。

○夏休み前に公式テキストを購入。夏休み中に勉強するように言っているが、ほとんどの生徒はしない(できない)。何をやっていいかわからない。

○各自宿題形式

○宿題

○宿題を検討中

7) 受験者数と合格率についてお聞かせください (H15実績)

※各校のデータを合算しました

3級

	1年生	2年生	3年生	4年生	全体
受験者	25	131	180	0	336
合格者	4	17	19	0	39
合格率	16.0%	13.0%	10.6%	0%	11.6%

2級

	1年生	2年生	3年生	4年生	全体
受験者	1	7	15	0	23
合格者	0	2	3	0	5
合格率	0%	28.6%	20.0%	0%	21.7%

8) 合格率に対しての生徒の反応をお聞かせください (H15実績)

「生徒の感想等」

○受験者は第1分野でくじけてしまう者が多く、学習の継続が思うように出来ませんでした。ただし、努力不足は十分認識していて、再度挑戦の意欲を示す者は少なくないです。他の生徒は、とにかく難しいものだという印象が強いようです。

○大変喜んでいいる。

○適切な助言を受ければ、3級程度であれば十分合格できる。ただし、2級には医学用語知識が多く必要なので難しそう。

○次回の合格への意思表示が多かった。

○2級になると社会的評価も高いので、意欲的に挑戦している。

○毎回問題が変わってきていて、過去の問題をやっているにもかかわらず合格できない。難しくなっているような気がする。

○覚えることが多すぎて難しい。

- 分野別の足切り（3級）があるので、合格しにくい。
- 2学期制への移行もあり、中間テストと重なる（7月）。
- 専門用語（特に医療用語）が聞き慣れるまで難しい。
- あと数問で合格ラインだと言っていました。
- やはり、医療系の専門用語などで苦労しているようである。



9) 他資格との関連についておたずねします

資格試験受験に対しての年間スケジュールをお知らせください。

資格試験名	学年	1学期				2学期					3学期			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
建築施工技術者試験	専攻科2年								■					
	4年							■	■	■				
	3年						■	■	■	■				
			■	■					■	■				
									■	■				
トレース技能検定	2~4年							■	■					
	1・2年						夏休み中、希望者に講習会							
	1年					■	■	■	■					
レタリング技能検定	2~4年	■	■											
	1~3年	■	■		放課後									
	1年	■	■											
アーク・ガス溶接、五掛	2年				■					■			■	
とび技能検定	3年			■	■									
計算技術検定	1~4年							■	■					
	1~3年		■	■					■	■				
CAD検定	1~3年									■	■			
初級CAD検定	2~3年	■	■	■										
建築情報処理技術者試験	3年	2ヶ月前から												
危険物取扱主任者	1~3年	■	■						■	■			■	
第2種電気工事士	2・3年	■	■	■										
カラーコーディネーター	1・2年	■	■	■						■	■			
インテリアコーディネーター	3年										■	■		
											■			
マンション管理士	3年										■	■		
英検3級	3年										■	■		
2級建築士	専攻科2年	■	■	■										

10) これから取り組む学校に対してアドバイスがあればご記入願います

- 学校行事や部活との両立が出来なかったり、他資格との掛け持ちで、共倒れることも多いので、欲張らず優先順位を付けさせて確実に合格させてやるのが大切だと思います。
- 1年目が終わったばかりです。
- 国家資格ではないので、実務で有効な資格であるかどうかはわからないが、建築関係で仕事する場合は身につけておいて損はない知識であると思う。
- 教員側が熱心に取り組むことにより生徒もやる気になり合格率も上がると思います。
- 受験指導ではなく、実際に役立つように見学会や体験実習（車椅子や介護）も実施します。

11) 今後、教材委員会に望むことがあればご記入ください。

- 可能な限りポイントを絞って頂きたいと思います。
- 試験会場が遠く、生徒が避けてしまう。各学校で受験できるようにして欲しい。
- 模擬試験10回分あれば大変助かります。
- 問題集、テキスト共に良いものがあれば欲しいです。
- インテリアコーディネーター受験の年齢制限がなくなったので、こちらの受験と福祉住環境コーディネーターの受験とで、生徒に勧めることを迷っています。（インテリアは受験料が高いため迷います）。

アンケートにご返答頂いた学校一覧（ご協力に感謝致します） 順不同

旭川工業高等学校(定)	函館工業高等学校	函館工業高等学校(定)	青森工業高等学校
弘前工業高等学校	山形工業高等学校	鶴岡工業高等学校	那須青峰高等学校
館林商工高等学校	市川工業高等学校	蔵前工業高等学校	葛西工業高等学校
田無工業高等学校	甲府工業高等学校	甲府工業高等学校(定)	長野工業高等学校
池田工業高等学校	金沢市立工業高等学校	一宮工業高等学校	



最後に、7月4日(日)に3級を受験した生徒に対するアンケートの結果を示します。

(都立蔵前工業高等学校 建築科2年生36名に対するアンケート結果)

問)「福祉住環境コーディネーター3級」を受験した感想をお聞きます。

a. 受験に際して、出題分野とその内容に関する難易度(理解度=正解率)を3段階でお答えください。

また、それぞれに自由記載欄を設けましたので、率直な気持ちを聞かせてください。

第1分野/福祉と住環境の連携

[難易度(正答率)]

1. 高齢社会と住環境整備 76%
2. 福祉住環境コーディネーターの役割と活動の場 72%
3. 社会福祉と住環境整備の考え方 40%

難しいと感じたことを教えてください

- ・福祉の法律と制度
- ・福祉介護保険の歴史

4. 高齢者の心身の機能と特性 67%
5. 高齢者介護のあり方 92%
6. 高齢者に対する諸関連施設とサービス 65%
7. 関連専門職への理解と連携 59%

難しいと感じたことを教えてください

(・各専門職の内容や介護業務における分担)

第2分野/福祉住環境の整備に必要な理論と実践

1. 福祉住環境整備の進め方 40%

難しいと感じたことを教えてください

(・各建築構造種別の基本的理解と特徴)

2. 福祉住環境整備の基礎知識 73%
3. 福祉住環境整備の基本技術 72%
4. 部屋別・場所別福祉住環境整備の仕方 54%

難しいと感じたことを教えてください

(・各建築構造種別の基本的理解と特徴)

5. 福祉用具の活用と住環境 86%
6. 福祉住環境整備の疾患・障害別応用技術 81%

b. これからこの試験を受験しようと考えている全国の工業高校生に対してアドバイスをお願いします。

1. 準備学習について

- ・きちんとやること
- ・補習に参加すればよかった
- ・テキストを読んだら、問題と交互にやればよい

- ・「過去問で分からないところをテキストで確認する」の繰り返しが良い
- ・最初はただ受けていただけだけど、すこしずつ勉強していったら分かってきてうれしくなった

2. 試験について

- ・つらかった
- ・時間が長くて疲れた
- ・あまり緊張しなかった
- ・ほとんど過去問と同じようだけど、難しく感じた
- ・少し緊張した
- ・難しかったが、やれば出来ないことはない
- ・今まで覚えたことが全部消えそうになるくらい緊張した
- ・勉強すれば受かる
- ・周りの人が早く終わっていたので、少しあせった



3. これから受験する他校生徒へのアドバイス

- ・ちゃんと勉強した方がよい
- ・福祉とサービス、老人の病気の特徴など勉強すべき
- ・寸法なども必要
- ・福祉用具を自分の目で見て体験することが有効
- ・絵を見て福祉用具を覚えるのがよい
- ・デイサービスでの体験実習が理解に役立った
- ・テキストを何回も読み返した方がよい
- ・自分のペースで勉強した方がよい
- ・まじめに勉強すれば合格する
- ・過去問を何回もやる
- ・寸法を丸暗記するだけでかなり進歩し、自信ができました
- ・単語帳に書いて覚えました
- ・あせらず受験すること
- ・勉強はたくさんした方がよい



ご協力ありがとうございました。

検定情報

- ・ <http://www.kentei.org/> (東京商工会議所の検定試験)
 - ・ <http://www.fjc21.org> (福祉住環境コーディネーター協会)
- 「福祉住環境コーディネーター検定試験®」は東京商工会議所の登録商標です。

14. 製図コンクール運営委員会報告

関東第一高等学校 塩澤 泰

第22回全国高校生建築製図コンクールには、東日本建築教育研究会の加盟校および、加盟校以外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂きました事を厚くお礼申し上げます。

[I] 応募状況

1. 応募校数

応募校数	全日制		定時制		東日本(会員校)				西日本(会員校外)			
					全日制		定時制		全日制		定時制	
22回:21回	22回:21回	22回:21回	22回:21回	22回:21回	22回:21回	22回:21回	22回:21回	22回:21回	22回:21回	22回:21回	22回:21回	22回:21回
78校:81校	73校:76校	5校:5校	65校:69校	4校:5校	8校:7校	0校:0校						

2. 応募作品数

課題名	東西の別	回数	学校数・作品数	全日制・作品数	定時制・作品数	
課題1	東日本	22回	53校:131点	51校:127点	2校:4点	
		21回	62校:146点	58校:139点	4校:7点	
	西日本	22回	6校:16点	6校:16点	0校:0点	
		21回	6校:16点	6校:16点	0校:0点	
課題2	東日本	22回	43校:101点	41校:97点	2校:4点	
		21回	44校:91点	43校:90点	1校:1点	
	西日本	22回	5校:11点	5校:11点	0校:0点	
		21回	4校:10点	4校:10点	0校:0点	
課題3	東日本	22回	44校:83点	40校:77点	4校:6点	
		21回	41校:80点	39校:75点	2校:5点	
	西日本	22回	7校:18点	7校:18点	0校:0点	
		21回	3校:8点	3校:8点	0校:0点	
課題4	東日本	22回	17校:45点	17校:45点	0校:0点	
		21回	13校:29点	13校:29点	0校:0点	
	西日本	22回	5校:13点	5校:13点	0校:0点	
		21回	2校:4点	2校:4点	0校:0点	
計		22回	418点(東日本 360点・西日本 58点)			
		21回	384点(東日本 346点・西日本 38点)			

3. 各課題応募作品数・学校数

		課題1	課題2	課題3	課題4
1点	22回	7校	9校	18校	2校
	21回	8校	12校	14校	4校
2点	22回	17校	13校	16校	4校
	21回	26校	19校	16校	4校
3点	22回	33校	25校	16校	16校
	21回	34校	17校	14校	7校

4. 校内作品審査数の総計

		課題1		課題2		課題3		課題4	
東日本	22回	1426点		941点		749点		219点	
	21回	2074点		1107点		917点		204点	
西日本	22回	175点		144点		89点		82点	
	21回	212点		118点		44点		4点	
計	22回	1601点		1085点		838点		301点	
	21回	2286点		1225点		961点		208点	

5. 都道府県別学校数・応募数

都道府県名 全日制校数 定時制校数	全定別	課題1				課題2				課題3				課題4			
		学校数		応募数		学校数		応募数		学校数		応募数		学校数		応募数	
		22回	21回	22回	21回	22回	21回	22回	21回	22回	21回	22回	21回	22回	21回	22回	21回
1 北海道 全13 定5	全日制	0	2	0	5	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0
	定時制	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
2 青森 全6 定0	全日制	1	0	1	0	1	1	1	3	2	2	3	2	1	0	2	0
	定時制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3 岩手 全4 定0	全日制	3	3	6	6	3	3	8	7	3	2	8	4	0	0	0	0
	定時制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4 宮城 全4 定1	全日制	3	2	9	6	1	2	2	3	1	1	1	3	1	0	3	0
	定時制	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 秋田 全6 定0	全日制	1	1	3	2	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0
	定時制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6 山形 全5 定0	全日制	1	1	2	2	3	2	6	5	1	0	3	0	0	0	0	0
	定時制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7 福島 全5 定1	全日制	1	2	3	6	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	定時制	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8 栃木 全7 定1	全日制	4	4	8	8	3	3	8	6	3	4	5	6	0	0	0	0
	定時制	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 群馬 全6 定2	全日制	2	2	6	6	1	2	3	6	1	3	2	5	1	1	3	2
	定時制	0	1	0	3	1	0	2	0	1	1	3	3	0	0	0	0
10 埼玉 全5 定1	全日制	3	4	8	10	3	3	6	5	2	2	4	5	2	1	6	3
	定時制	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11 茨城 全5 定0	全日制	1	1	2	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	定時制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
12 千葉 全6 定1	全日制	3	3	5	4	1	1	2	1	2	2	2	3	0	1	0	1
	定時制	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13 東京 全10 定3	全日制	6	7	15	15	5	5	12	12	6	6	11	12	4	3	10	5
	定時制	1	0	3	0	1	0	2	0	1	1	1	2	0	0	0	0

都道府県名 全日制校数 定時制校数	全定別	課題1				課題2				課題3				課題4			
		学校数		応募数		学校数		応募数		学校数		応募数		学校数		応募数	
		22	21	22	21	22	21	22	21	22	21	22	21	22	21	22	21
		回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回
14 神奈川 全7 定4	全日制	1	2	3	5	2	2	4	5	1	3	1	7	1	1	3	3
	定時制	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
15 山梨 全3 定1	全日制	3	2	9	4	3	2	7	4	3	1	8	3	1	1	3	3
	定時制	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16 新潟 全4 定0	全日制	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4	0	0	0	0	0
	定時制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17 長野 全4 定1	全日制	4	4	9	10	2	3	6	5	1	3	1	4	0	1	0	1
	定時制	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18 富山 全2 定0	全日制	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0
	定時制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19 石川 全4 定1	全日制	0	1	0	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	定時制	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20 福井 全2 定0	全日制	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	定時制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21 静岡 全6 定2 全128 定25	全日制	1	3	3	9	1	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	定時制	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	定時制	2	4	4	7	2	1	4	1	4	2	6	5	0	0	0	0
西日本計 全107 定23	全日制	6	6	16	16	5	4	11	10	7	3	18	8	5	2	13	4
	定時制	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広島・愛媛・兵庫・三重																	
東西日本計	全日制	57	64	143	155	46	47	108	100	47	42	95	83	22	15	58	33
	定時制	2	4	4	7	2	1	4	1	4	2	6	5	0	0	0	0
合計		59	68	147	162	48	48	112	101	51	44	101	88	22	15	58	33

[II] 入賞者一覧

金賞・銀賞・銅賞作品といえども、未熟なミスがあり甲乙つけがたい作品であるため、未熟なミスの少ない作品が上位になりました。甲乙つけがたい作品は入選という扱いにしました。

1. 課題1 (軒先マワリ詳細図) 入賞者

賞	学校名	学科・学年	生徒氏名
金	愛知県立豊橋工業高等学校	建築土木科1年	森田 恭平
銀1	私立名古屋工業高等学校	建築科1年	水野 望
銀2	名古屋市立工芸高等学校	建築システム科1年	山田 充彦
銀3	千葉県立市川工業高等学校	建築科1年	徳野 美沙子
銅1	松山聖陵高等学校	建築科1年	仙波 慶至
銅2	群馬県立高崎工業高等学校	建築科1年	市川 佳代
銅3	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科1年	松浦 辰徳
銅4	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科1年	佐藤 登一
銅5	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科1年	小林 久美
銅6	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築科1年	大塚 剛史
入選1	愛知県立半田工業高等学校	建築土木科1年	赤井 晃基
入選2	東京都立蔵前工業高等学校	建築科1年	望月 麗
入選3	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科1年	塚田 耕平
入選4	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科1年	酒井 裕樹
入選5	愛知県立半田工業高等学校	建築土木科1年	森田 篤史
入選6	埼玉県立熊谷工業高等学校	建築科1年	福田 吉宏
奨励1	千葉県立葛南工業高等学校 定	建築科1年	近田 博
奨励2	東京都立小石川工業高等学校 定	建築科2年	安倍 将也

2. 課題2 (木造平家建専用住宅) 入賞者

賞	学校名	学科・学年	生徒氏名
銀1	山形県立山形工業高等学校	建築システム科2年	井上 潤一
銀2	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科2年	石田 綾子
銀3	千葉県立市川工業高等学校	建築科2年	大下 祐治
銅1	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科2年	黒岩 友紀
銅2	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科2年	森川 百合
銅3	神奈川県立神奈川工業高等学校 定	建設科3年	大石 晃司
銅4	東京都立蔵前工業高等学校	建築科2年	柴崎 孝幸
銅5	東京都立葛西工業高等学校	建築科2年	関口 良太
銅6	愛知県立半田工業高等学校	建築科2年	竹内 一輝
入選1	長野県立飯田長姫高等学校	建築科2年	朝日 大和
入選2	愛知県立半田工業高等学校	建築科2年	副島 真二
入選3	岐阜県立可児工業高等学校	建設工学科2年	小池 康規
入選4	東京都立蔵前工業高等学校	建築科2年	古川 翔平
奨励1	群馬県立高崎工業高等学校 定	建設科2年	坂村 龍馬
奨励2	群馬県立高崎工業高等学校 定	建設科2年	新井 淳
特別賞	長野県立飯田長姫高等学校	建築科2年	小林 加奈

3. 課題3（木造2階建専用住宅）入賞

賞	学校名	学科・学年	生徒氏名
金	昭和第一学園高等学校	建設システム科3年	三品 俊一
銀1	三重県立津工業高等学校	建築科3年	柴山 修平
銀2	兵庫県立龍野実業高等学校	建築科3年	前田 雄二
銀3	愛知県立半田工業高等学校	建築科3年	吉村 梨奈
銅1	愛知県立半田工業高等学校	建築科3年	尾田 勇樹
銅2	栃木県立小山北桜高等学校	建築システム科3年	布袋田 将人
銅3	兵庫県立龍野実業高等学校	建築科3年	濱崎 友和
銅4	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科3年	西 惠理子
銅5	松山聖陵高等学校	建築科2年	田中 秀明
銅6	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科3年	澤宮 圭輔
入選1	愛知県立半田工業高等学校	建築科3年	浅田 国成
入選2	宮城県立古川工業高等学校	建築科2年	鶴谷 隆二
入選3	松山聖陵高等学校	建築科2年	寺尾 淳
奨励1	群馬県立前橋工業高等学校	建築科2年	南雲 弥菜美
奨励2	東京都立小石川工業高等学校 定	建築科4年	秋本 祥
奨励3	群馬県立高崎工業高等学校 定	建設科4年	中島 まゆみ

4. 課題4（CAD製図）入賞者

賞	学校名	学科・学年	生徒氏名
金	松山聖陵高等学校	建築科3年	濱本 優作
金	松山聖陵高等学校	建築科3年	菊池 得幸
銀1	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科3年	山口 翔平
銀2	愛知県立一宮工業高等学校	建築科2年	土川 晃廣
銅1	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科3年	木村 健太
銅2	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科3年	古井戸 啓史
銅3	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科3年	原口 はるか
入選1	松山聖陵高等学校	建築科3年	中平 健介
入選2	愛知県立半田工業高等学校	建築科3年	久田 壮司
入選3	愛知県立半田工業高等学校	建築科3年	佐藤 直生
入選4	愛知県立一宮工業高等学校	建築科2年	山田 恵里

[Ⅲ] 審査報告

(1) 審査にあたり、まず各課題の複写図を用意しました。

課題1は、コピーの複写図。

課題2・3は、青焼きの複写図。

青焼きの速度によって複写図の善し悪しないように、速度は自動に設定しました。

課題4は、課題1と同様にコピーの複写図。

(2) 次に全複写図の表題欄をカットしました。

ただし、金・銀・銅に該当する作品は最後に原図にて確認しました。

(3) 審査ポイント

a) 課題1

参考図を製図の基本に従って忠実に模写するものです。線の太さの区別・文字の大きさ・文字の形・部材の配置などの優劣が入賞か否かのポイントになりました。

b) 課題2

参考図を模写する部分（平面）と、設計要素と表現力を必要とする部分（配置図・立面図・断面図）の内容です。立面図・断面図の表示内容と造園計画（表現力）が、入賞のポイントになりました。今年度初めて金賞に該当する作品はありませんでした。

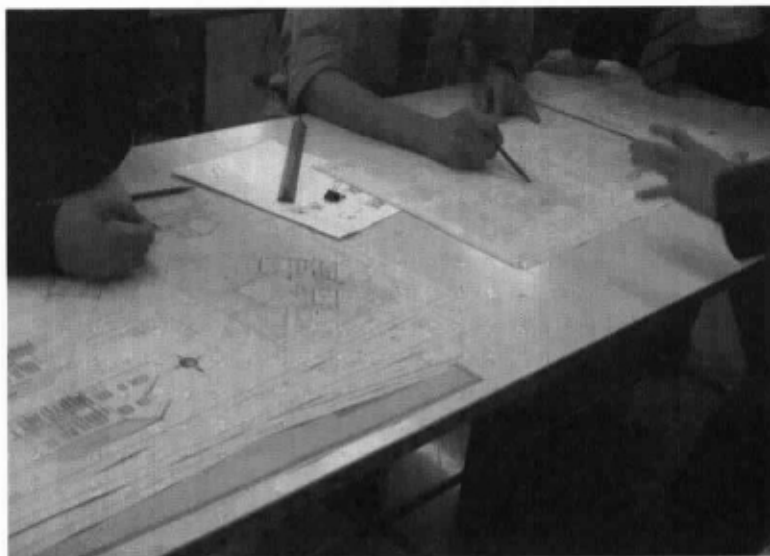
c) 課題3

設計製図であり、配置・平面・意匠・構造計画および、製図力・表現力など、トータルなもので審査されました。入賞作品は平面・立面・構造計画がすぐれており、図面表現が良いものが優先されました。

d) 課題4

与えられた間取り・敷地から平面図兼配置図（造園計画を含む）を作図する内容で、表現は製図規約に基づきます。上位2点が最後まで甲乙付けがたく今年度初めて金賞2作品としました。製図規約に明らかに違反している作品は、入選作品から除外しました。

(4) 審査経過



審査は各課題ごとにチェックポイントを定め、減点方式により計画・構造・施工・製図の各分科会委員の先生方に、それぞれの専門分野から見ていただき、最終的には委員全員が投票を行い、厳正かつ公平に実施しました。

[IV] 審査委員

第22回製図コンクールの、審査・作品開封・作品梱包・作品発送などに携わって頂いた先生方は以下の方々です（敬称略、順不同）。

古賀 昌之（田無工）	福島 勝（日工大付東京工）	高橋 篤史（安田学園）
橋本 政美（昭和第一学園）	岡田 幸雄（小山北桜）	稲垣 弘太郎（藤沢工）
吉野 博行（大宮工）	角田 勝男（神奈川工）	筒井 齊（神奈川工定）
遠藤 悟（墨田工）	吉城 守（春日部工）	小島 聡（葛南工）
小島 正巳（前橋工）	國島 かほり（向の岡工）	大間 俊彦（関東第一）
荒木 宏道（前橋工定）	沢野 茂（葛西工）	鈴木 隆（墨田工）
稲垣 弘太郎（藤沢工）	飴谷 知久（安田学園）	松下 信禎（葛西工）
菅谷 太郎（川越工）	峯 孝一（京葉工）	小沢 宏（蔵前工）
大久保 健（葛西工）	松井 貞二（蔵前工）	

来年度（第23回）も、今年度とほぼ同じ課題で実施しますので、課題別講評を参考にして頂き、ご応募くださるようお願い申し上げます。

なお、審査結果は「住宅建築」（建築資料研究社刊）平成16年5月号に、課題3の金賞作品の図版入りで、入賞者一覧表も掲載の予定です。

15. 資格取得推進委員会

東京都立墨田工業高等学校 鈴木 隆

一昨年より主査会・資格取得推進委員会で話題になっていた、『建設系教職員の現場体験を中心とした研修会』ができないものかの声が現実になり、参加してまいりました。建設系教員に採用され、現場の経験があまりないまま教壇に立つ、あるいは実習を行うことの不安の解消が出来れば、また、ベテランの先生方が再度の認識・確認と実習内容の拡充を図ればとの考えのもと、全国工業高等学校長協会夏期研修会の一環として取り上げていただき、実施開催となりました。今回の開催に当たり、建設系ではなく『実業高校』と銘打ったことが各種学科の先生方の参加をいただく結果となり、大変有意義な研修会となりました。

初年度のこともあり、資格取得推進委員第1回目の参加者として以下のような体験学習に取り組みました。

8月23日(月)	8月24日(火)	8月25日(水)
入校式 測量概要 測量機器の設置法 光波測距 時間内設置練習型枠設置	朝礼 体操、安全確認訓練 測量機器の取り扱い 墨出・配筋実習 丁張りの設置 意見交換会	朝礼 体操、安全確認訓練 鉄筋、型枠実習 終了式



【体験実習内容】。

①測量概要

光波測距儀による、測点上への設置（下げ振りを用いない設置）法の習得。参加者全員1分以内の設置が可能となった。プリズムを用いての角測等。

②丁張りの設置・墨出し作業の手順

前日学んだ測量概要を活用して、土木系は丁張りの設置。建築科系は墨出し作業を学びました。

丁張りは、基礎工事の下地づくりが目的の作業で、水杭・水貫などをレベル等の測量機械を用いて設置する作業です。

墨出しはコンクリートの土間を、捨てコンクリート表面と仮定して、コンクリート基礎・地中梁など、配筋・型枠工事前の寸法出し及び逃げ墨の設置等を行った。

③鉄筋加工手順、組立て・型枠の加工手順、組立て

作業に先立ち鉄筋の種類・特徴、製造メーカー等の解説及び、配筋に関する基礎知識を学びました。その後、コンクリートの土間でスラブ配筋について学び、実際に結束作業を協力して行いました。作業のコツ、能率の良い安全な作業について、実習をしながら注意を受け、まさに生きた体験学習でした。

型枠についても薦の親方からわかりやすい解説と、使用器具類の名称や取り扱い方の指導を受けながら、作業のコツや能率の良い安全な作業について学びました。

この他にも、各種レジメ、テキストなど授業の展開、拡充に有意な資料等を沢山いただきました。しかし、数多くいただいた資料も大切ですが、本当に大切なことは、ここに集い寝食を共にして、学科の違いはあれど、皆で同じ課題に取り組んだことだと考えています。参加して頂いた先生方が各校へ持ち帰られた宝を即生徒の皆さんに還元していただければと思います。最後になりますが、本講習会にお骨折りいただいた、富士教育センター・建設業組合・振興基金・全国高等学校長協会の関係者の皆様に感謝いたします。来年度以降もこの講習が発展して、数多くの先生方の自信・参考となることを確信いたします。



16. 建築系高校生徒体験実習を終えて

東京都立蔵前工業高等学校 小 沢 宏

昨年夏の東日本建築教育研究会山梨大会において、富士教育訓練センターの校長である菅井氏からセンターの紹介があり、我々はその存在を知りました。研究会としてセンターを利用しての生徒の実技研修実施について、資格取得推進委員会を中心に1年間の検討期間を経て、今回の「建築系高校生徒体験実習」となりました。

近年、工業高校では企業におけるインターシップの重要性が提唱される中で、建設業界の状況は思わしくなく生徒の受け入れ先が少ないのが実情です。また、生徒の進路希望と企業での実際の仕事とのミスマッチを防ぐためにも現場での実習であると考えています。

	A M	P M
第1日目(8/23)		開校式・学科(鉄筋・型枠)
第2日目(8/24)	鉄 筋 実 習	測 量 実 習
第3日目(8/25)	型 枠 実 習	修 了 式

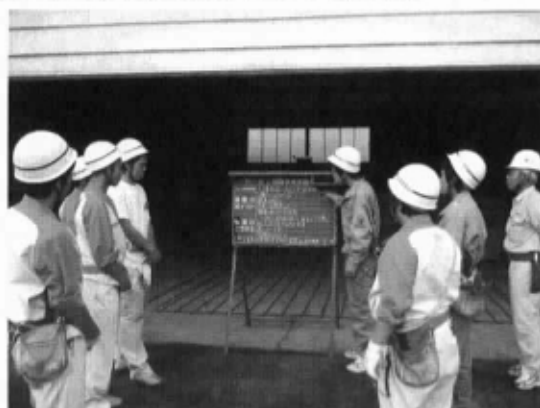
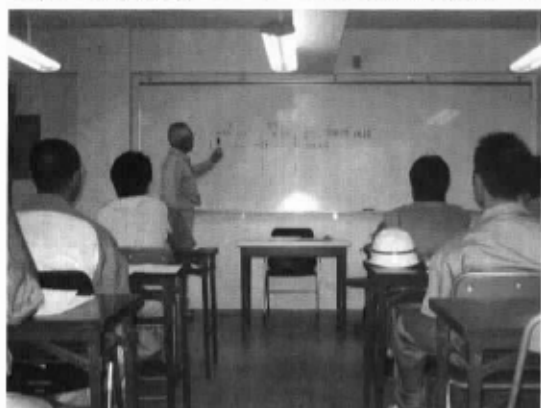
今回の実習内容は、設系車両やクレーンなどの資格取得を目的とするものでなく、参加生徒に建築の現場を肌で知ってもらう『模擬体験』を主眼にして計画されました。

具体的には

- ①基礎的な技術と専門的な知識を現場の技術者の指導により体得する。
- ②宿泊を伴う団体生活により集団生活のルールを体験的に学ぶ。
- ③建設業界で働く社会人との共同生活により建設業界の職場習慣を知る。

以上の3点をテーマに絞りました。

資金的な面での見込みの立ったのが6月半ばと遅く、募集期間が十分にとれず20名定員に対して結果的に9名しか応募がなく実施が危ぶまれました。しかし、東京建設業協会と富士教育訓練センターの全面的な協力・支援により実施の運びとなりました。



この実習で、まず生徒が驚いたのがセンターの研修生全員での朝礼で出欠点呼報告・準備体操・2人組での向かい合っでの安全確認とあいさつ練習で、はじめ生徒たちは所在なさそうに小さな声でやっていましたが、まわりの大きな声に影響され段々彼らの声も大きくなっていきました。また、各グループの代表者による体験スピーチは嫌がっていた生徒も立派にこなし度胸がついたようです。センター内では彼らも誰彼となくあいさつができ

るようになりました。

実習では、学校と違うスケールで熟練技術者からの直接指導や現場の話聞き、建築の現場に興味を持つとともに、技術も基本的なことが身に付き、さらに現場の作業の流れがよく理解できたようで、生徒の目が生き生きし、テキパキと体が動いていました。また、一部の实習では専門学校との連携で応用的・より現実的な体験をすることができました。



生徒の感想は、一言でいうと「おもしろかった」に集約できるようで、建築業界への理解と興味を持ったことは間違いないようで、初期の目標を達成することができました。

今回、生徒たちと行動をとともにした私も体験実習を通じて、

- ①実物教育を通じて生徒の専門への理解と興味がより増大すること。
- ②集団生活が、生徒の社会ルールとチームメイトとの協調性を養うこと。

以上の2点を改めて実感するとともに、建設業界に進む生徒に対するこのような実習の必要性を再認識しました。



最後に、今回の経験から浮かび上がった課題である

- ①実施計画の早期作成と募集期間の確保。
- ②より一層の実習内容の充実。
- ③建設業協会・センター・専門学校との連携方法。
- ④生徒の費用負担の軽減など。

さらに検討を重ね、来年度以降も継続していきたいと考えています。

17. 岩手県立盛岡工業高等学校建築教育の現状

岩手県立盛岡工業高等学校 川 端 健 三

1. はじめに

国際化・情報化・科学技術の高度化、社会経済状況の激変に加えて、少子高齢化による生徒数の長期的な減少など、学校を取り巻く環境は年々その厳しさを増してきている。

岩手県教育委員会は04年8月、少子化、生徒の進路の多様化などに対応するため、県立高校新整備後期計画案を県政調査会で公表し、その反響が大きく広がり今後の教育行政の行方が注目される。本校もまた15年に9科から8科に、さらに今後、現在の8科から7科へと学科改編がなされる予定となっている。

2. 学校の沿革

本校は明治30年「富国強兵・殖産興業」政策のもとに岩手県実業学校として、全国で13番目に認可され、明治31年の5月、金工科（現機械科）、木工科（現建築科）の2科で開校した。

その後、大正12年に土木科、昭和12年応用化学科（現工業化学科）、戦後工芸科（現デザイン科）、電力科（現電気科）、電気通信科（現電子科）を増設、昭和48年には情報技術科、そして平成元年電子機械科を新設、平成15年電子科・情報技術科を募集停止し、電子情報科を新設。

現在1・2年8学科、3年9学科の25学級を有する岩手の工業高校のセンタースクールとして、平成10年創立百周年を迎え記念式典を挙行、この間2万2千5百有余の有為な人材を世に送り出し、百五年の歴史と伝統を今に受け継いでいる。

3. 県立高等学校新整備後期計画（2005～09）

岩手県教育委員会は98年9月「県立高等学校長期構想検討委員会報告」、99年「県立高等学校新整備計画（前期計画）」の実施を経て2004年8月3日「県立高等学校新整備計画（後期計画）案」を県政調査会で発表した。

これは、前期計画を踏まえ、普通高校・専門高校・新しいタイプの学校多部制単位制高校など、望ましい教育の実現として5年を期間として、移行期間などを含めて実質10年間の方向性を示し、計画では現在77校ある県立高等学校が5年後の2009年には59校に統合される。

学級数では、普通科は193が159に専門学科は30%から25%と減少し、総合学科が増加。これによって農業3校、工業5校、商業1校、水産1校となる。但し、併設校や系列として、それぞれの専門教育は学べるとしている。又、2007年までの充足率を勘案し、整備を検討する高校が5校、さらに、2009年度までに検討する高校は14校、県全体で高校数が40数校と激減する可能性がある。また、本県の公立の建築科を設置する工高については、08年大船渡工業高校・高田（家庭科）・広田水産（家庭科）・大船渡農業高校は総合的な専門校として統合されることになり、久慈工業高校は09年度に、それまでの定員充足率等を勘案して統合・学科改編などを検討されることになっている。

4. 建築科における活動

(1) 社会人招聘及びインターンシップについて

民間の専門分野に精通した人材を講師として招聘し、生徒に民間の優れた技術や知識などに直接触れさせる機会を与え、ともすればマンネリ化する学習指導に新鮮な刺激を与えると同時に、私達教師の指導力の向上につながることを期待して実施している。主なものとして、

① 岩手県公共建築設計監理協会

出張出前講師：テーマ「設計が目指すもの」(創造と設計)

② 盛岡市生涯学習推進本部 もりおかまちづくり出前講座

もりおかの都市景観 ～盛岡の街並みと都市景観～

③ 先輩と語る会 (卒業生による)

「社会人になるための心構え」・「実践的な建築技術者のあるべき姿」

④ 施工技術者試験準備講習会

講師：武蔵工業大学工学部建築学科教授 野崎喜嗣 氏

⑤ 就業体験

建築科2年を対象に、建築関係企業・自治体等の協力により実施。

⑥ 現場見学

岩手県建設業協会主催による現場見学の実施 (1年及び2年を対象)

(2) 進路指導について

最近、進路に対する目的意識が希薄になり、志望動機があいまいなまま進路選択をしている生徒が年ごとに増加してきているように感じられる。この原因はいろいろあると思われるが、「なりたい自分」を描けないことが第一に挙げられる。三者面談や日常の進路指導を通して本人とのコミュニケーションをとり希望実現に向けて努力をしている。

バブル経済崩壊後、ゼネコンの求人が激減し、最近では皆無といってもいいほど厳しい求人状況にある。このような状況のなかで専門を活かす道がとざされるのではないかと懸念を深刻に受けとめながら懸命に模索している。

5. おわりに

幾多の変遷を経て、その時々時代の荒波を乗り越えながら、伝統ある学科に新たな学科を加え、岩手の工業教育の先駆者として本県の産業の発展に寄与しつつ、ここに百五年を経過した。

そしていま、少子高齢化や産業構造の変化と技術革新など社会情勢が大きく変化するなかで、21世紀における工業高校はどうあるべきかが、いま大きな課題となっている。

科学技術や産業社会の進展、入学してくる生徒の意識の多様化など工業教育に求められる課題は多く、ますますその混迷度を増すことが予測されるが、日本の「ものづくり」の根底を支えるのは今も昔も工業高校を卒業した若い世代であり、彼らに期待するところが多い。確かな技術力を身につけ、時代のいかなる変化にも対応できる実践的技術者の育成に力を入れることと同時に校訓である「質実剛健」のもと、人間としてあるべき姿を追求することこそが、私達に課せられた最大の責務であるのではないかと考える。

18. 群馬県の工業高等学校建築科の変遷

群馬県立藤岡工業高等学校 今井賢治

1. 現在の工業高校建築科の状況

群馬県の建築科設置高校は、現在、県立高校で六校あります。建築関係者等関東近隣では知る人は知る「六校建築展」の六校に相当するものです。

- 1) 前橋工業高校は、大正12年創立、昭和2年木工科として設置、昭和6年建築科に変更。定時制は、大正12年創立、昭和15年建築科設置。
 - 2) 高崎工業高校は、昭和15年創立、昭和19年建築科設置。定時制は、昭和16年創立、昭和24年設置、平成4年建設科建築コースに変更。
 - 3) 桐生工業高校は、昭和9年創立、昭和38年建設科の後に昭和45年建築科設置。
 - 4) 藤岡工業高校は、昭和37年創立、昭和41年建築科設置、平成12年コース制（計画コース・施工コース）に変更。
 - 5) 長野原高等学校は、昭和27年創立、昭和44年建築科設置、平成10年コース制（建築コース・デザインコース）に変更。
 - 6) 館林商工高校は、昭和60年創立、昭和60年建築科設置、平成14年コース制（建築コース・生産システムコース）に変更。
- という六校に、全日制・定時制で教職員50名余り、生徒1000名弱の態勢です。

2. 工業立国日本の時流での変化期

戦前に創立された三校（前工・高工・桐工）に地元の要請から、前橋工業高は木工科でスタートし昭和6年に建築科となる、定時制は昭和15年に設置される。高崎工業高校には、昭和19年に建築科が設置され、地方都市の中心に建築科が置かれた。戦後の復興期は、昭和24年に高崎工業高校の定時制に建築科が設置される、その後、所得倍増計画等の政策による「工業立国日本」の旗印の下に、重工業の牽引と発達によって国際競争力が強くなり経済大国へと成長し続ける事になる。

昭和30年代の後半に東京オリンピックを向かえる頃より工業高校が増設される、それと共に建築科も設置されるようになる。それまでも桐生工業高校には建設科（土木・建築）があり、この頃より「建築展」の開催が始まった。此処までの高校が伝統校であり、後に新設校の藤岡工業高校に昭和41年、長野原高校に昭和44年、桐生工業高校が昭和45年と相次いで建設科が設置される。工業高校は建築の中堅技術者を大量に養成、社会に送り出す必要があり、工業国としての需要が鱈上りとなる。一方で、世の中の動きは、戦後の日本で量的に不足していた住宅・都市施設の建設が推し進められ、爆発的な建設ラッシュが続き国の建設事業も年々増加の道を歩む。

続いて、高度経済成長により学歴社会や高校全入時代と言われ、中学校生徒の進学率の向上と高校の増設期が訪れる。いわゆる東西南北高校や工業高校が相次いで創立される。

昭和60年には館林商工高校に県内最後の建築科が設置される、この時点で県内に六校の建築科が設置され「六校建築展」も開催される、どの工業高校も建築科の入試倍率は高く、人気の学科逝なった、そして、日本はバブルに突入、労働力不足も相まって建築科の卒業生は引っ張り尻で新卒者は不足気味な状態にあった。

3、バブルが終焉してからの再編期

平成に入ると、日本は高度経済成長で生活品としての物づくりは達成され、生活に必要な道路等の都市施設や建物も数の上では、ほぼ達成されました。なのに、あまりの景気良さに本当の経済活動を見失い過度の投機までに発展、未来まで続くと思いをした経済は夢となり泡となってバブルの経済は終わりました。

量の上では日本中があらゆる物に満たされたように、工業高校の建築科も数の上では十分に満たされましたが、バブルと同様に質の低下が顕著に現れ始めました。中学校の進学は普通高校指向となり、工業高校は程度の低いものと位置づけられる傾向となりました。

そんな中で、平成10年頃より生徒減に合わせるかのように、目先の誤魔化して総合学科やコース制などを導入し始めるようになりました。それでも定員割れには対処し切れませんでした。対処の方向・方法が間違っていたのです。暗雲の時は流れてやっとの事で平成17年度より藤岡工業高校、長野原高校で建築科の募集停止、桐生工業高校は建設科（土木・建築）として改編されます。来年度からの募集は県内では四校の建築科設置校で、前橋工業高校・高崎工業高校の二校が全日制（一学級）・定時制の建築科募集、他の桐生工業高校・館林商工高校の二校ではくくりによる建築科募集となります。

4. これからの見通し

世の中の動き、需要と供給の関係、歴史は繰り返す…など、いろいろ考えられる状況の中で、群馬県の工業高校建築科は、数字の上では確実に半減します。前橋・高崎・東毛地区（桐生・大田・館林方面）に全日制は一学級づつの三～四校の120名定員となり、定時制は二校に設置され四十年程昔と同様になり、歴史が繰り返される感があります。

建設ブームで技術者を大量に必要とした時から、全体に余りが出てリストラに合う技術者が出る。今、年齢のアンバランスで次に来るのは若年技術者の不足です。職人と呼ばれる職種の人々の後継者不足に見るように、これから先においてまた技術者の養成が必要となるかもしれません。まさに需要と供給の関係の中にあります。

更に、国の公共事業に見るように、建設業の需要は自然発生的には極僅かな量ですが、国策ともなれば膨大な量となりバブルにまでなってしまう。それに動かされる人々は雪崩や洪水のようにものすごい勢いで動きます。日本の現在を見るに付け、公共事業の大幅削減で建設業界は冷え切り、淘汰・転換を余儀なくされています、建設業の特殊性とは言え、まさに世の中の動きに左右される業界です。

都市施設も建築物も量的には満たされている状況にあり、人口もそろそろピークを越え減少に転じます。これからは、質より量の時代からメンテナンスや質の高いものにシフトを変更し、一定の高いレベル（質）の維持で大きな波（バブル）も無く、更新が繰り返されるのではないかと思います。建設業界の安定期です。

県の教育委員会の統廃合による高校改革もそういう意味では、時代に合致しているように思えます。工業高校の建築科は伝統校と地域校の少数に縮小整備されたことで、本来の教育活動が行われるような足元をしっかりと築く時です。このチャンスを生かし、より充実した教職員とやる気のある生徒で県内の建築科を再構築することになるでしょう。その結果、かつての中堅技術者並の高いレベルで高品質な内容となり、世の中で再度見直される日が来ることと確信しています。

19. 新潟県の工業高等学校建築教育の現況

新潟県立新潟工業高等学校 渋谷 俊 晴

県内には4校に建築科が設置されており、それぞれ設置状況が若干異なっている。新潟工業高校は昭和59年に建築科の中に建築コースと建築設備コースが設置され、新発田南高校は昭和58年に普通科と一緒に併設されている。県央工業高校は平成16年から一括くり募集で、上越総合技術高校も平成16年から系列のくり募集を実施している。このように、同一県内で建築科の状況が異なっているのは全国的にも数少ないと思われる。新潟県は南北300kmに及ぶ細長い県でそれぞれの地域性もあり、また、現在の産業界の構造的な変化、少子化や普通科指向による専門高校の希望者の減少など、時代の大きな流れの中で工業高校の改編が行われている。新潟県内の建築科も学校の統合を含めて、大きく変化していく過渡期となっている。以下県内の各建築科の現況を紹介した内容である。

新潟県内の建築科が設置されている高校

学 校 名	設 置 科・コース
新潟工業高等学校	機械、電気、工業化学、建築（建築コース、建築設備コース）、土木
新発田南高等学校	普通、機械、建築、土木
新潟県央工業高等学校	コース（加工材料、材料技術、メトロクス、情報電子、建築、都市工学）
上越総合技術高等学校	機械工学系（機械技術コース、メトロクスコース） 電気・情報系（情報技術コース、エレクトロクスコース、電気エネルギーコース） 住環境系（建築システム、都市工学コース、環境科学コース、環境デザインコース）

新潟工業高等学校 建築科

本校は昭和14年に開校し、現在は機械科2クラス、電気科1クラス、建築科2クラス（建築コース1クラス、建築設備コース1クラス）、工業化学科1クラス、土木科2クラスの1学年8クラスで生徒数は約960名を擁している。自ら学ぶ精神の育成を教えた「自主創造」の校風のもとに、ラグビー、ウエイトリフティング、レスリングなどが全国大会に進出し、大学進学も毎年10余名が国立大学に合格する実績を上げている。

建築科では「基礎・基本」の定着を図り、選択科目を入れながら、社会の変化に対応できる人材の育成を目指している。進路については年々進学者が多くなっており、就職は昨今の建設業界の現状から厳しい状況が続いている。また、新潟市内に建設系の専門学校が3校あり、専門学校と工業高校の棲み分けも考えていかなければならないのが現状である。

昭和59年に県内の設備工業界からの強い要望があり建築科の中に建築設備コースが新設され、県内ただ一校の設備コースとして各方面で卒業生が活躍している。

新発田南高等学校 建築科

本校は大正6年に開校し、今年87周年目を迎えた、新潟県でも有数の伝統ある学校です。昭和58年には、従来の工業科（機械科2クラス、建築科1クラス、土木科1クラス）の4学級に普通科を併設し、校名も新発田南高等学校と改称しました。

工業科では平成15年度入学生の2年次より進学型・専門型の選択制を取り入れ、卒業

後の進路選択に対応可能な教育課程となっています。

学校生活では生徒会活動・部活動が非常に盛んで部活動への加入率も非常に高く、北信越大会・全国大会にも多くのクラブが進出しています。〔誠実〕〔自主〕〔創造〕を教育目標とし今までの伝統の上に、さらに新しい未来に向かって飛躍を目指している学校です。

建築科は将来の建築技術者の育成をめざし、専門科目の座学だけでなく「ものづくり」を通した授業内容に重点をおいています。

卒業後の進路については近年、進学者の割合が非常に高くなっており県内外の国立大学に毎年合格するなどの実績も上げています。

新潟県立工業高等学校 建設工学科

明治44年、郡立三条商工学校（金工科、染色科、商業科各1学級）として開校した。その後、新潟県立三条商工学校、三条工業学校、三条実業高等学校、三条工業高等学校と改称し、平成16年4月に燕工業高等学校と統合し、新潟県立工業高等学校となった。

従来の機械科2学級80名、電子機械科2学級80名、建設工学科1学級40名の募集から、1学年工業科5学級200名を「一括くり」で募集し、入学後1年間のガイダンスで2年生以降のコースを選択する。つまり、1年次は工業基礎科目を学習しながら工業の基礎的な知識を身に付け、併せて2年生以降の各コースの学習内容についてガイダンスを受ける。そして、自分の興味・関心・適性や進路希望に合ったものを「加工材料」「材料技術」「メカトロニクス」「情報電子」「建築」「都市工学」の6つのコースから自ら選ぶのである。

コース選択については、基本的には生徒の希望優先である。そのため、クラス編成は従来の各科毎ではなくミックスホームルームとなる。県内の工業高校とは異なる形態であり、学科再編をすすめ地域のニーズに対応できる学校を目指している。

建築コースは基礎・基本の定着を図りながら、進学希望者にも就職希望者にも対応できるよう2年次から選択科目を多く設定している。

上越総合技術高等学校 全日制 建築システムコース

本校は、平成15年、高田工業高等学校と直江津工業高等学校との統合により校名を「上越総合技術高等学校」と改称した。現在は、系ごとによるくり募集を開始し、機械工学系（機械技術コース、メカトロニクスコース）、電気・情報系（情報技術コース、エレクトロニクスコース、電気エネルギーコース）、住環境系（建築システムコース、都市工学コース、環境科学コース、環境デザインコース）の9コースで構成されている。専門科目は、1学年では全系が共通したものを履修し、2学年より、自分の希望したコースで本格的に学習する。

建築科は元来、高田商工学校時代の昭和18年に設置され、多くの技術者を育成してきたが、このたびの統合において建築システムコースとなり、時代の要請に応じた教育を目指している。コンピュータでの情報学習・CAD、実習を充実させ、資格取得、大学進学にも力を入れている。また、社会人講師の講演や、インターンシップを取り入れ、工業技術の基礎・基本を身につけた有為な社会人の育成を目指している。

20. 福井県立武生工業高等学校建築教育の現況

福井県立武生工業高等学校 橋本和之

1. はじめに

本校は福井県のほぼ中央、古くは越の国の国府も置かれた武生市にあり、周囲には電気・化学・機械関係の製造業や、めがね・繊維・和紙・刃物などの伝統産業の工場が多く存在する。

創立以来45年を経過し、経済の高度成長とともに多くの優秀な人材を地域社会に送り出してきた。しかし、社会の「豊かさ」に伴い、家族労働、集団での遊び、ものづくりなど生活体験の機会が減少し、生徒の生きる力の減退が問われている。

近年は大学進学希望者の増加や少子化、さらに豊かさの中で進路を先延ばしする風潮などの影響で、明確な目的意識を持った生徒の入学が減少してきた。このことが学習意欲の



減退につながり、工業高校本来の目標の達成に困難を来している。これら当面の課題を克服するには、理論と体を使っての実践が調和した工業高校での学習内容の真価をあらためて見直し、工業高校本来の良さを地域にアピールし入学希望者を増やすことで、活力ある学校にする必要がある。

そこで、平成11年度から「地域社会への貢献（技術ボランティア）を通して『心ある技術者』の育成」という推進テーマのもと学校全体で特色づくりに取り組むことになった。

2. 推進テーマ設定の背景となった取組み

本校には、生徒の建築の専門性をより高めるために、「建築クラブ」という課外活動がある。平成2年度から、地域に密着したテーマに取り組むようになった。

以下その取組みと成果を列举すると、

- まぼろしの鯖江城（平成2年度～平成5年度 天守閣復元模型1/30を 現在鯖江公民館に展示）
- 本保障屋復元（平成6年度～平成10年度 復元模型1/30を現在武生パレスホテル2階市民ギャラリーに展示）
- 武生南小学校新旧校舎模型（平成11,12年度 創立100周年記念実行委員会から依頼され、武生南小学校に寄贈）

このような地域に開かれた実践では、専門性を生かした地域への貢献（技術ボランティア）を通して、地域の方々を理解しようとする気持ちが芽生え、「自分は何もできない」と思っている生徒が地域の人から喜ばれ、感謝されることで自信をつけ、一人一人が驚くほど意欲的に成長できた。

3. 推進テーマにもとづく取組み

1) 幼児のための家具・遊具づくり

平成11年度から都市・建築科において継続的に「幼児のための家具・遊具づくり」という課題研究に取り組んでいる。家庭科で保育体験を行っている保育園に行き、幼児の立場に立ち何をつくるか考え、幼児の体に合うような寸法も吟味し、作った家具・遊具を幼児にプレゼントするという実践である。

「子どもたちがあんなに喜んでくれると、本当にこっちも作りがいがあつたし、うれしかった。やりとげたような気持ちになった。とても簡単なおもちゃ箱だったけど、あんなに子どもは素直に喜んでくれるので、その気持ちがこっちにもとてもよく分かった。」

という生徒の感想にも見られるように、こちらが期待する以上に、生徒は3年間で学ぶ技術・技能が社会でどのように役に立つのか実感し、工業高校を卒業する自覚と責任感がわいてくるきっかけにもなった。



このような地域に開かれた実践が専門教科ばかりでなく、普通教科にも広がり、平成12年度1学期に武生南小学校の特殊学級の児童と本校生徒が調理実習でいっしょにクッキーをつくるという実践が家庭科で行われた。この実践をふまえて12年度の遊具・家具づくりは同学級の児童といっしょに家具を製作するという実践を盛り込むことになった。

2) 近世の府中(武生)と現在の重ね地図

平成13年、武生を整備した殿様「本多富正」が武生に来て400年になるということでいろいろなイベントおこなわれた。その実行委員会から依頼があり、都市・建築科3年生5名が主力メンバーとなって越前府中城周辺の重ね地図(縮尺1:1500 A1サイズ)をCADで作図した。

現在の住宅地図、当時の測量にもとづくほぼ正確な明治8年の地籍図、江戸時代の武生の絵図をスキャナーで読みとり、細かな点の集まりのデータ(ラスターデータ)を線のデータ(ベクトルデータ)に変換し、時代ごとのゆがみ、ズレをCADで修正するなどして作図した。フィルムの現代版地図を紙製の江戸と明治のどちらかの地図を重ね合わせれば、道路や町並が一目で比較できるだけでなく、現在の市役所付近にあったといわれている府中城が、正確にどこにあったか割り出せる。これは、まだ地域の誰もやっていない初めての試みだった。

平成13年8月に紫式部公園の横のギャラリー叔羅で開催された本多富正記念展で出品され、地域の方から非常に感謝され、新聞にも掲載され、武生市立図書館にも收藏された。その後1年生3名に引き継がれ、それから2年間、この地図の作図域を府中城周辺から旧武生市街地全部に広げた地図(縮尺1:1500 B0サイズ)に取り組み、ようやく平成16年2月に完成した。現在、この地図をもとに昔の通り名復活に向けての運動が進め

られている。
重ね地図に取り組んだ都市・建築科3年生3名は、卒業試験終了後「なんとか卒業式までに間に合わせよう」と自由登校の中、連日パソコンに向かい合ってきた。生徒の感想には
「寺に使われている漢字が時代によって変わるなど市民として気づきにくい点も勉強できた。また、江戸時代の絵図に修正した後を見つけることで、当時の人の苦勞に思いをはせることができました。」とあり、地域の歴史的なものに打ち込んだ生徒が地域を支える人材に育っていただければと願っている。

江戸・明治に現在重ねて

武生 地図で見える 変遷

武生工業建築科少作製

本多富正記念展に出品

江戸 明治 現代

3時代の武生

今も変わらぬ通りも

4. これまでの実践の省察とこれからの展望

1) これまでの実践の省察

これまでの実践を通して、学校の中だけで行われていた活動が少しずつ地域に開かれ、改善されてきており、一定の成果も上がってきている。しかし、課題研究の研究テーマは、生徒の希望をふまえつつも、生徒が主体的に設定したものとはいえず、ある程度こちらが設定したいくつかのテーマの中から生徒が選択している。その後の調査、分析、まとめ、発表といったものも、こちらから細かく指導し、生徒はあとをなぞって終わっているのが現状である。



「幼児のための家具・遊具づくり」でおもちゃ箱をつくった生徒が「箱を動かしやすいようにと思って下にローラーをつけたが、子どもたちが箱の中に乗って遊んでいるのを見て、おもちゃ箱じゃなくそんな遊び道具もありかなと思った。子どもたちが乗って遊ぶにはちょっと乗り降りするのが高くて大変そうだったから、もうちょっと工夫すればよかった。大きいおもちゃ箱や小さいおもちゃ箱を連結して、汽車ぽっぽみたいにしても良かった。造ってからあすれば良かったなどの後悔を残さないよう、ちゃんと自分たちが納得のいくようなものを後輩達にはつくってもらいたい。」と感想で述べているように、次につながる学びの芽を3年次だけの課題研究では活かしきれていない。現状は、プロジェクトを提起し、なぞる段階にとどまっており、省察にもとづいて考えながら活動の再構成、自覚的に発展させていくサイクルまで至っていない。

発展的で、実現可能性の高い方向定位をなしうる力を培うためには、実際に幾度も発展的に、発意・構想・構築・遂行・発表・省察の一連の自己活動のサイクルを積み重ねていかなければならない。省察にもとづいて考えながら活動を再構成し、自覚的に発展させていくサイクルまで至ってはじめて「学ぶ力・生きる力」が身についたといえるのではないだろうか。

そうあるためには、単に課題研究の1教科だけでなく、他の教科との連携を強化し、課題研究の発展形として1年次から取り組むことが必要だと考える。

2) 今後の課題

問題は、「他の専門教科との関連をどう図るのか。」「専門だけでなく、普通教科との関連をどう図るのか。」である。

工業高校本来の良さを地域にアピールするだけでなく、より多くの生徒が「学ぶ力・生きる力」を持って工業高校を巣立っていくためには、多くの教師が関わって効果が上げられるものだと思う。地域社会への貢献（技術ボランティア）を学校の教育目標とどう関わらせ、教科や特別活動とどう関連づけるのか。学習内容・方法の配列をどう編成するのか。全体計画や年間指導計画の編成に際して、全教員が十分な議論を尽くし共通理解をいかに図っていくか。

課題や不安はつきないが、生徒とともに探求したいという強い思いを抱きながら、工業高校の専門性を生かした地域社会への貢献（技術ボランティア）を通し、「21世紀を展望した技術者」とりわけ地方分権、少子化・高齢化社会における“地域を支える心ある技術者”の育成を目指し、やれることを着実に実践していきたいと考えている。

21. 事務局報告

1. 大会開催都道府県について

現在、開催順を下記の通り計画をしております。

16	17	18	19	20	21	22	23
群馬	岐阜	静岡	岩手	富山・石川・福井	埼玉	福島	神奈川
実施	決定	決定	決定	決定	予定	予定	予定

なお、大会においての

「平成15年度より研究発表の一部または全部を次期開催県が担当する」

ことが平成13年5月23日、常任理事会で既に決定しております。

各都道府県会員校の皆様のご理解とご協力をいただき円滑な実施を図りたいと考えています。

2. 東日本建築教育研究会ホームページを開設致しました。

<http://www.e-j-kenchiku.com/>

連 絡

1. 東日本建築教育研究会刊行物

☆建築構造図集	実教出版㈱	¥ 890
☆第5版 建築の基礎問題	実教出版㈱	¥ 1470
☆建築施工技術者テキスト	実教出版㈱	¥ 1980
☆建築法規学習ノート3訂版	実教出版㈱	¥ 1470

上記4冊を本研究会では刊行しています。その収益は研究会の活動資金となりますので多くの学校での採用をお願いします。

2. 会員校動静（平成16年5月末現在）

会員校155校

【新規入会】

岐阜県立岐阜工業高等学校

静岡県立静岡工業高等学校 定時制

3. 予告：平成17年度から事務局は田無工業高等学校になります。

※ 平成16年度事務局は、東京都立小石川工業高等学校が担当しております。

研究会運営等につきまして、お気付きの点がございましたら

連絡をお願い致します。

TEL：03-3353-8468 / FAX：03-3353-0640

22. 会員名簿訂正

平成16年度東日本建築教育研究会会員名簿(P.23~24)に誤記がありました。以下の様に訂正をお願い致します。
関係の先生方にご迷惑をかけ大変申し訳ございませんでした。

7. 福島県

- | | | | |
|------|--|---------------------------|----------------------------|
| 7-01 | 県立 福島工業高等学校 | 全日制
昭和23年創立 | 校長 関根敬次
昭和26年建築科設置 |
| | 〒960-8003 福島市森合字小松原 1 | | |
| | ●U R L http://www.fukushima-th.fks.ed.jp/ | 電話 | 024-557-1395 |
| | ●E-mail ftkenkou@safins.ne.jp | FAX | 024-556-0405 |
| | 校長 関根敬次 () | 教諭 馬場彦吉 (構・設) | |
| ○ | 教諭 佐久間亨 (計・実) | 教諭 寺島弘幸 (実・計) | |
| | 実教 穴戸孝雄 (実・図) | 実教 菅野幸一 (実・図) | |
| | 講師 菊田高史 (図・施) | | |
| 7-02 | 県立 福島工業高等学校 | 定時制
昭和23年創立 昭和24年建築科設置 | 校長 関根敬次
昭和5年工業科建築コースに変更 |
| | 〒960-8003 福島市森合字小松原 1 | | |
| | ●U R L http://www.fukushima-th.fks.ed.jp/ | 電話 | 024-557-1395 |
| | ●E-mail ftkenkou@safins.ne.jp | FAX | 024-556-0405 |
| | 教諭 渡部泰博 (計・図) | 実教 高荒昭夫 (実・図) | |
| | 講師 鈴木武 (構・図) | 講師 中山武徳 (計・図) | |
| 7-03 | 県立 会津工業高等学校 | 全日制
明治37年創立 | 校長 熊田良治
昭和23年建築科設置 |
| | 〒965-0802 会津若松市徒之町 1-37 | | |
| | ●U R L http://www.asaka.ne.jp/~aizutech | 電話 | 0242-27-7456 |
| | ●E-mail aitech@asaka.ne.jp | FAX | 0242-29-9239 |
| | 教諭 内藤陸朗 (構・基) | ○教諭 渡部鉄仁 (施・情) | |
| | 教諭 二瓶賢一 (設・図) | 教諭 山野辺幸喜 (計・図) | |
| | 実教 菅原健治 (実・図) | 実教 高橋弘光 (実・図) | |
| 7-04 | 県立 郡山北工業高等学校 | 全日制
昭和19年創立 | 校長 秋葉史裕
昭和25年建築科設置 |
| | 〒963-8052 郡山市八山田 2-224 | | |
| | ●U R L http://www.koriyamakita-th.fks.ed.jp/ | 電話 | 024-932-1199 |
| | ●E-mail | FAX | 024-935-9849 |
| | 教諭 鈴木正美 (設・図) | ○教諭 大越忠士 (構・図) | |
| | 教諭 富樫実 (計・図) | 教諭 池上邦彦 (計・設) | |
| | 実教 田母神三知夫 (実・図) | 実助 伊能亮太 (実・基) | |

23. 編集後記

おかげ様にて「建築教育ニュース」2004年号ができました。
教育活動にお忙しい中、ご執筆いただきました先生方大変有り難うございました。
また、会員名簿につきましては、多くの先生方にご迷惑をかけ、誠に申し訳ございませんでした。

2004. 11
編集委員会

編 集：編集委員会 伊 藤 和 生（墨田工高） 遠 藤 啓 史（市川工高）
古 賀 昌 之（田無工高） 鈴 木 健（田無工高）
柳 澤 力 也（田無工高）

発 行：東日本建築教育研究会（代表：佐 藤 清 親）

事 務 局：〒162-0067 東京都新宿区富久町22-1 TEL03-3353-8468
東京都立小石川工業高等学校（事務局長 岩 見 立 也）

編集事務局長：〒135-0004 東京都江東区森下5-1-7 TEL03-3631-4928
東京都立墨田工業高等学校（編集委員長 伊 藤 和 生）